

## 別紙 3

### 「ユースケース 3. 株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有」 検討結果詳細

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の現行課題 －課題の概要－

- 株券貸借取引については、新規取引及び返済取引に係る照合・DVP決済のインフラは存在するが、貸借料・担保金金利・配当金相当額の照合についてはインフラがなく、メール等でのコミュニケーションとなっている。

## 株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有の課題

### 1. カウンタパーティ間のコミュニケーション

日次・月次の貸借料・担保金金利の照合、及び配当金支払い時の配当金相当額の照合においては、カウンターパーティ間でメール等にてコミュニケーションをとりながら進める必要があり、照合や不一致の対応が非効率。

### 2. 取引の標準化と照合業務のさらなる効率化

貸借料等の計算ルールは「株券等貸借取引のガイドライン」が日本証券業協会にて定められているが、ファンドの計理基準等との整合の観点などから、ガイドラインとは異なるルールでの取引もあり、計算ルールをはじめとした業務効率化のための標準化の検討が必要な状況にある。

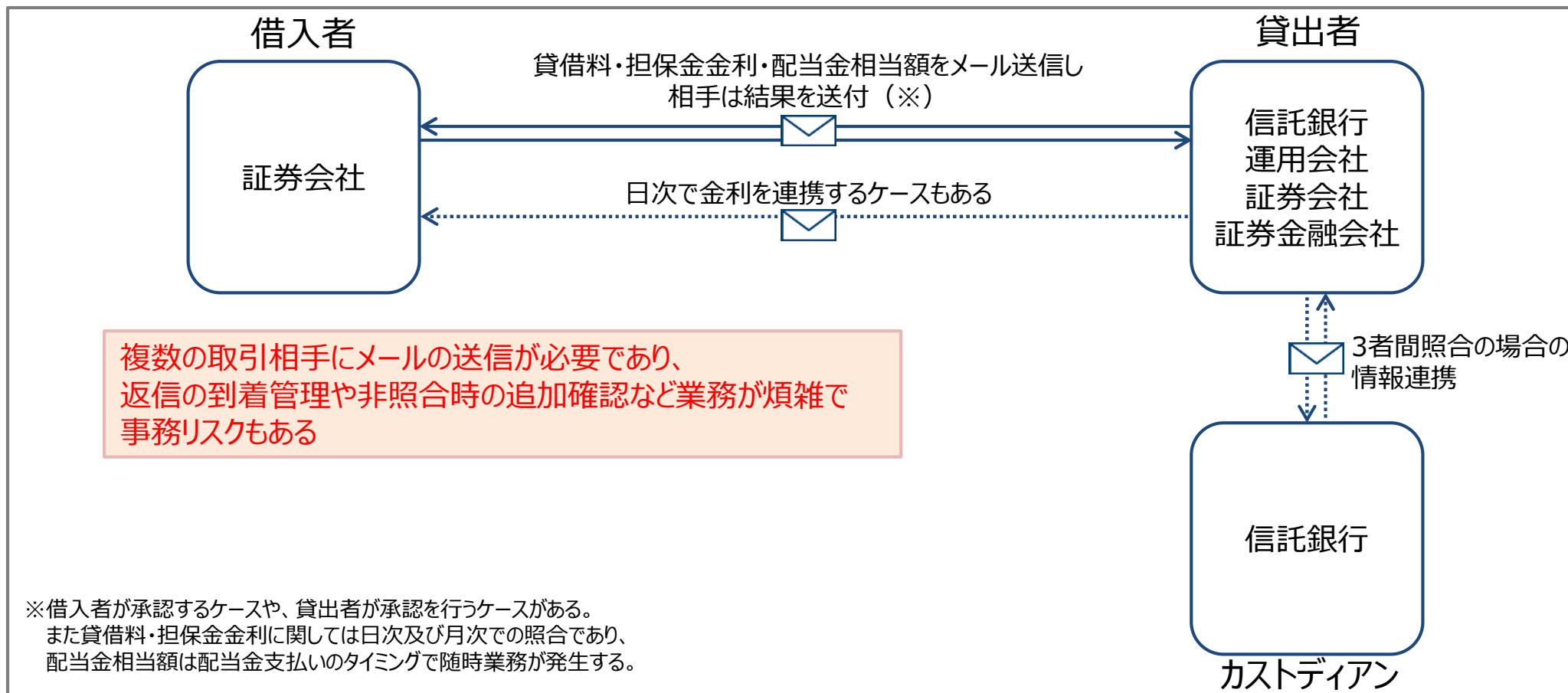
### 3. 照合において必要なデータの連携

現状、貸借料、担保金金利、配当金相当額の計算は、各社の自社システムにて行っているが、計算の要素となる時価や金利、配当情報は外部からのデータの取得が必要であり、各社で情報ソースが異なる。

－課題 1 カウンタパーティ間のコミュニケーション－

- 新規取引及び返済取引に係る照合・DVP決済のインフラは存在するが、貸借料・担保金金利の照合、及び配当金相当額の照合業務においては、インフラが存在しないことからメールでのコミュニケーションとなっており、業務が非効率であり事務リスクもある。
- 照合業務では2者間や3者間照合となるケースがあることもあり、取引パターンによりコミュニケーションが必要な相手も変わる。

カウンターパーティ間のコミュニケーションの課題

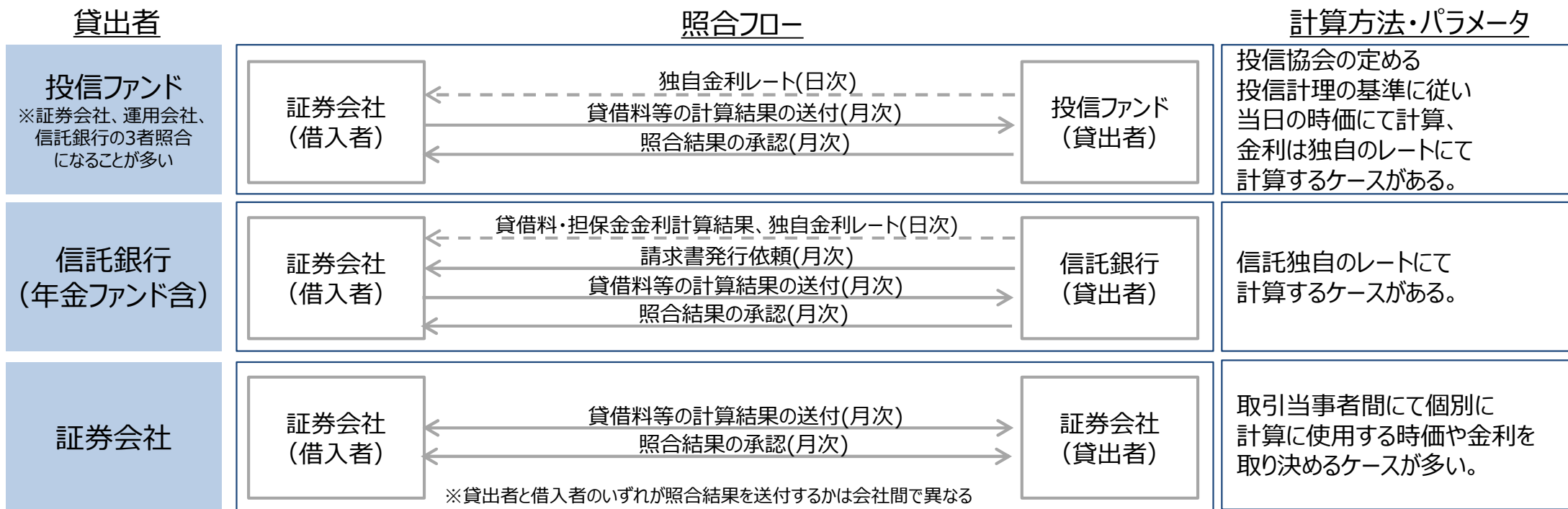


# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の現行課題

As-Is

## -課題 2 取引の標準化と照合業務のさらなる効率化-

- 貸借料、担保金金利、配当金相当額は貸出者によって照合フローが異なり、照合業務が煩雑である。
- また、日本証券業協会の策定する“株券等貸借取引に関するガイドライン”は存在するものの、実務では計算に必要な時価や金利はいくつかの種類があり、取引に応じてパラメータを変更する必要がある。



<参考> 株券貸借取引におけるガイドラインにて定められた各種計算式

※上記は主な例であり、実取引においては会社・ファンド毎にフローや計算は異なる

### 貸借料

$$\text{〈日次〉 貸借料} = \text{時価総額 (貸借数量} \times \text{貸借対象株券等の時価}^*) \times \text{貸借料率} \times 1/365$$

$$\text{〈月次〉 貸借料 (月次)} = \sum_{\text{月初曆日} \sim \text{月末曆日}} \text{全貸出明細単位の各日の貸借料}$$

小数点第3位を四捨五入  
合算後の小数点以下切り捨て

### 担保金金利

$$\text{〈日次〉 担保金金利} = \text{各日の担保金残高} \times \text{担保金利率} \times 1/365$$

$$\text{〈月次〉 担保金金利 (月次)} = \sum_{\text{月初曆日} \sim \text{月末曆日}} \text{各日の担保金金利}$$

小数点第3位を四捨五入  
合算後の小数点以下切り捨て

※時価は前日の保振時価（休日の補正がされたもの）

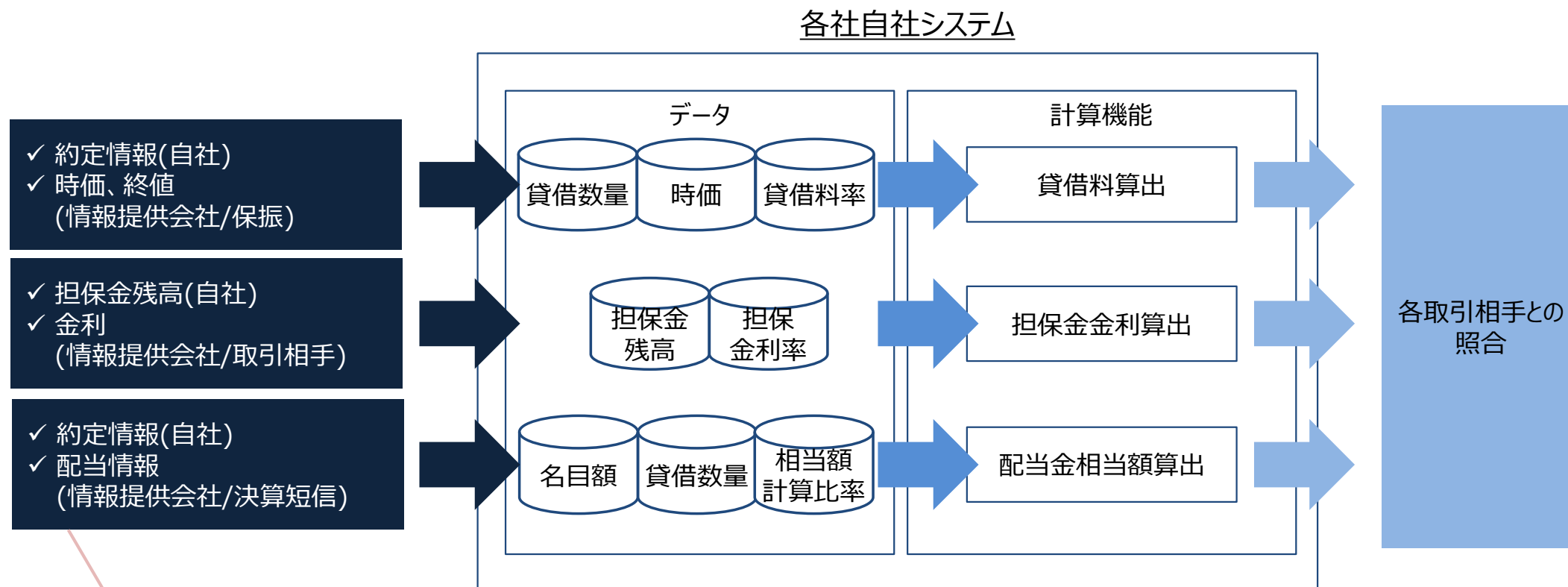
フローや計算のパラメータが異なることで  
取引に応じた対応が必要となり、業務が煩雑。

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の現行課題

## -課題3 照合において必要なデータの連携-

As-Is

- 各社の自社システムにて貸借料・担保金金利・配当金相当額の計算を行っているが、計算に必要な時価や金利、配当情報は外部からのデータ連携が必要であり、情報ソースが異なる。
- また、コーポレートアクション発生時等においては。外部から取得した時価データの補正などの対応が必要となる。



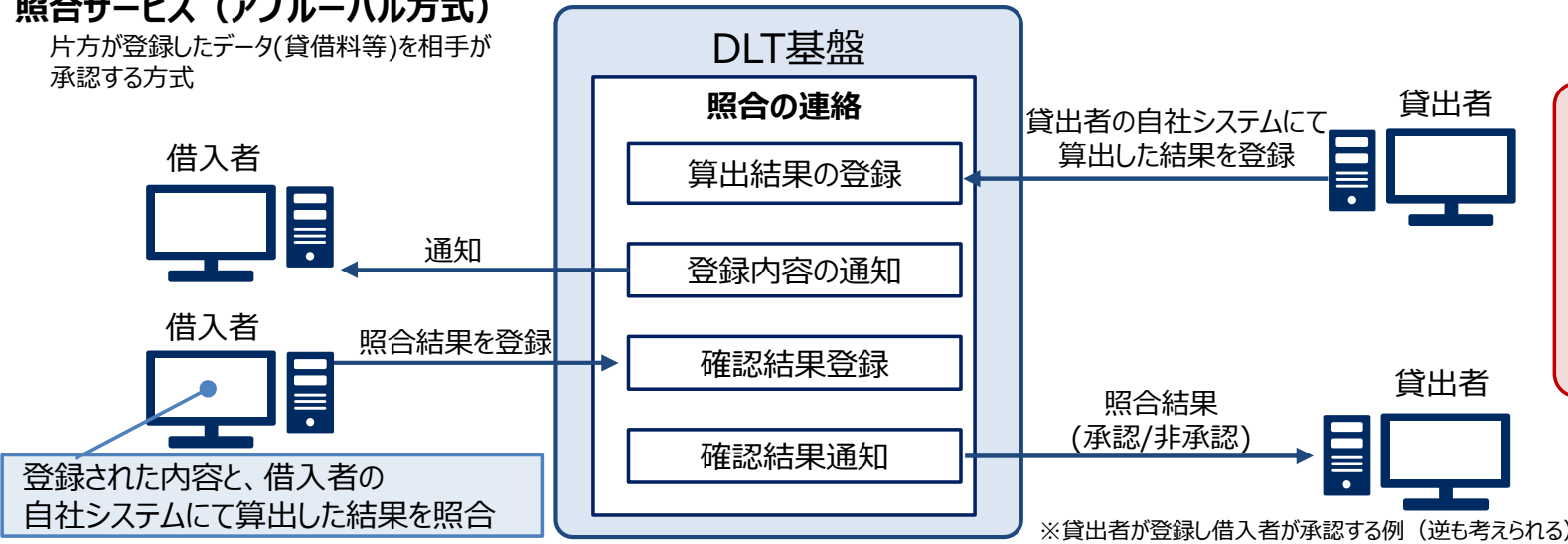
約定情報等の自社で保持するデータの他に、時価や配当情報等、外部からのデータ連携が必要であり、会社や取引によって、情報ソースが異なる。また、コーポレートアクション時などには個社で補正が必要。

－課題 1 カウンターパーティ間のコミュニケーション－

- DLT基盤上に照合業務に関する情報を集約することで、カウンターパーティ間のコミュニケーションの効率化を図る。
- 実現方法としては、現行のメールの承認のコミュニケーションをDLT基盤上で行う方式（アプルーバル方式）と、DLT基盤に双方がデータを送付しリコンサイルする方式（セントラルマッチング方式）が考えられる。

照合サービス（アプルーバル方式）

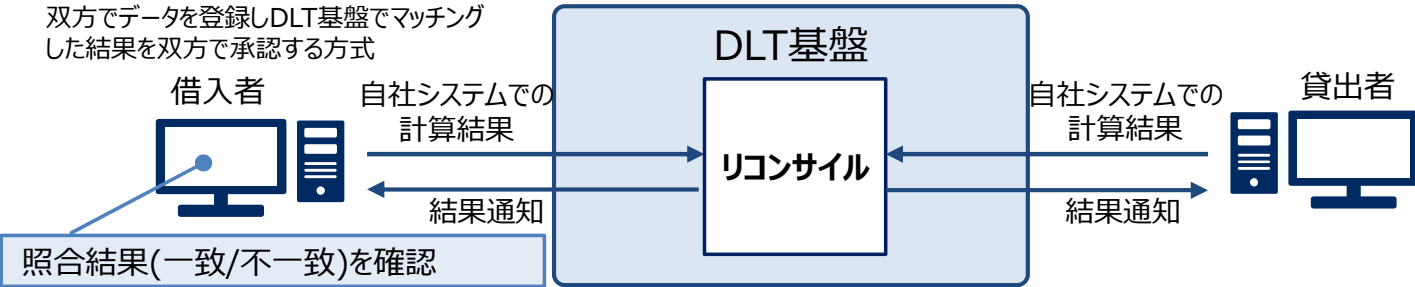
片方が登録したデータ(貸借料等)を相手が承認する方式



DLT基盤にて照合業務に関するデータ連携やステータスの管理を行うことで現行から業務プロセスを大きく変更することなくコミュニケーションの効率化と事務リスク低減を行う。

照合サービス（セントラルマッチング方式）

双方でデータを登録しDLT基盤でマッチングした結果を双方で承認する方式



DLT基盤上にて照合を行い結果のみを確認することでコミュニケーションを減らし業務を効率化させると共に事務リスクも低減させる。

※APIでのサーバ接続もしくはWEB画面から入力・参照・アップロードを想定

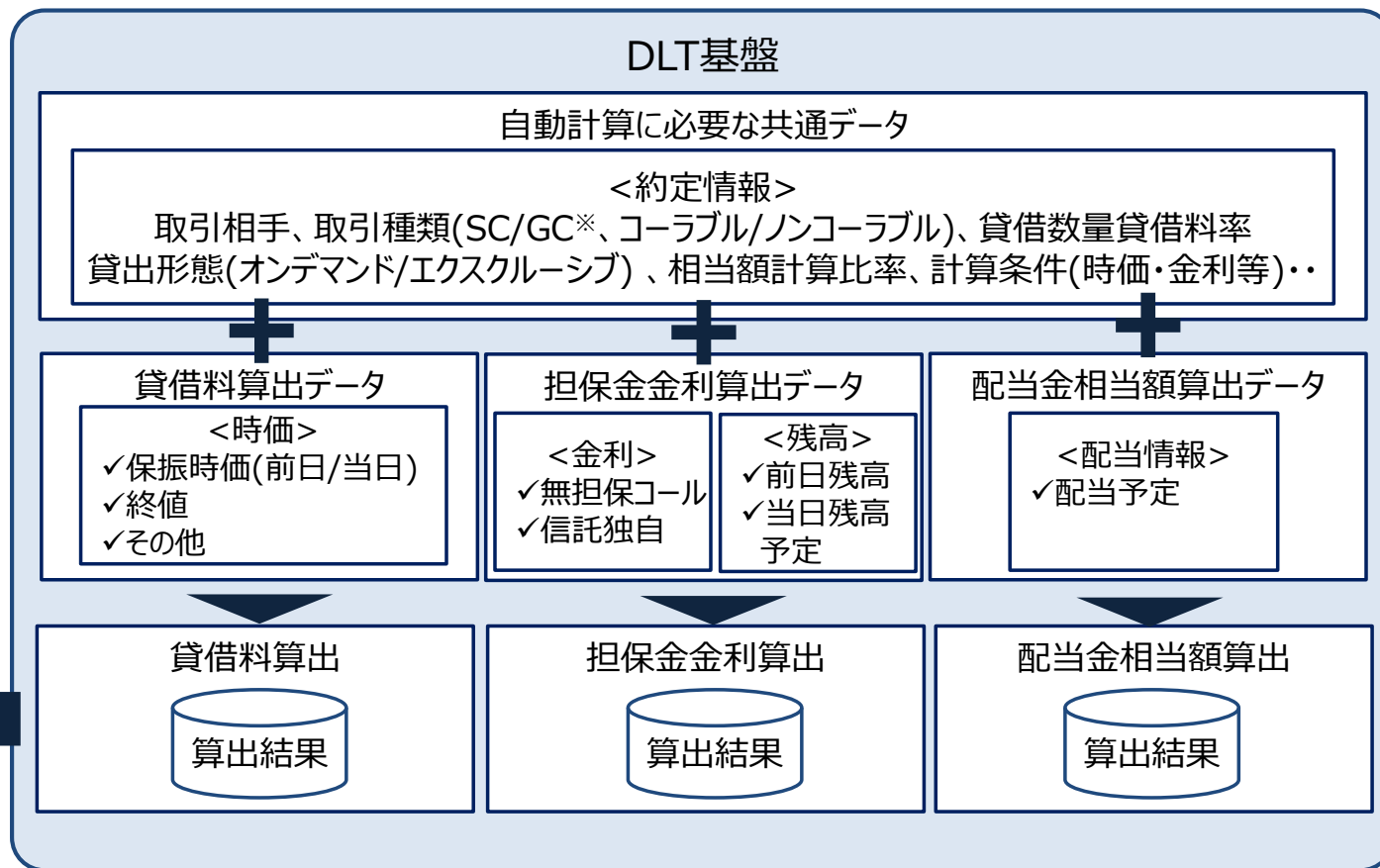
ケース 1 の課題 1 対応のコミュニケーションツール、通知機能と併用することで更なるコミュニケーションの効率化が期待できる。

-課題2 取引の標準化と照合業務のさらなる効率化-

- 約定情報、時価、金利等の貸借料・担保金金利・配当金相当額の算出に必要なデータをDLT基盤に集約しDLT基盤にて自動計算することで業務の効率化を図ると共に、取引の標準化を図る。
- 自動計算に当たっては、使用する時価や金利などのパラメータを選択できるようにすることで、標準化を進めつつも一定の柔軟性を持った仕組みとする。

自動計算サービス

登録した約定情報等に基づきDLT基盤にて自動計算された結果を双方で確認する方式



DLT基盤で自動計算することで業務効率化と標準化を進めることができ、自社システムを作りこむ必要もなくなり参入のハードルも下がる

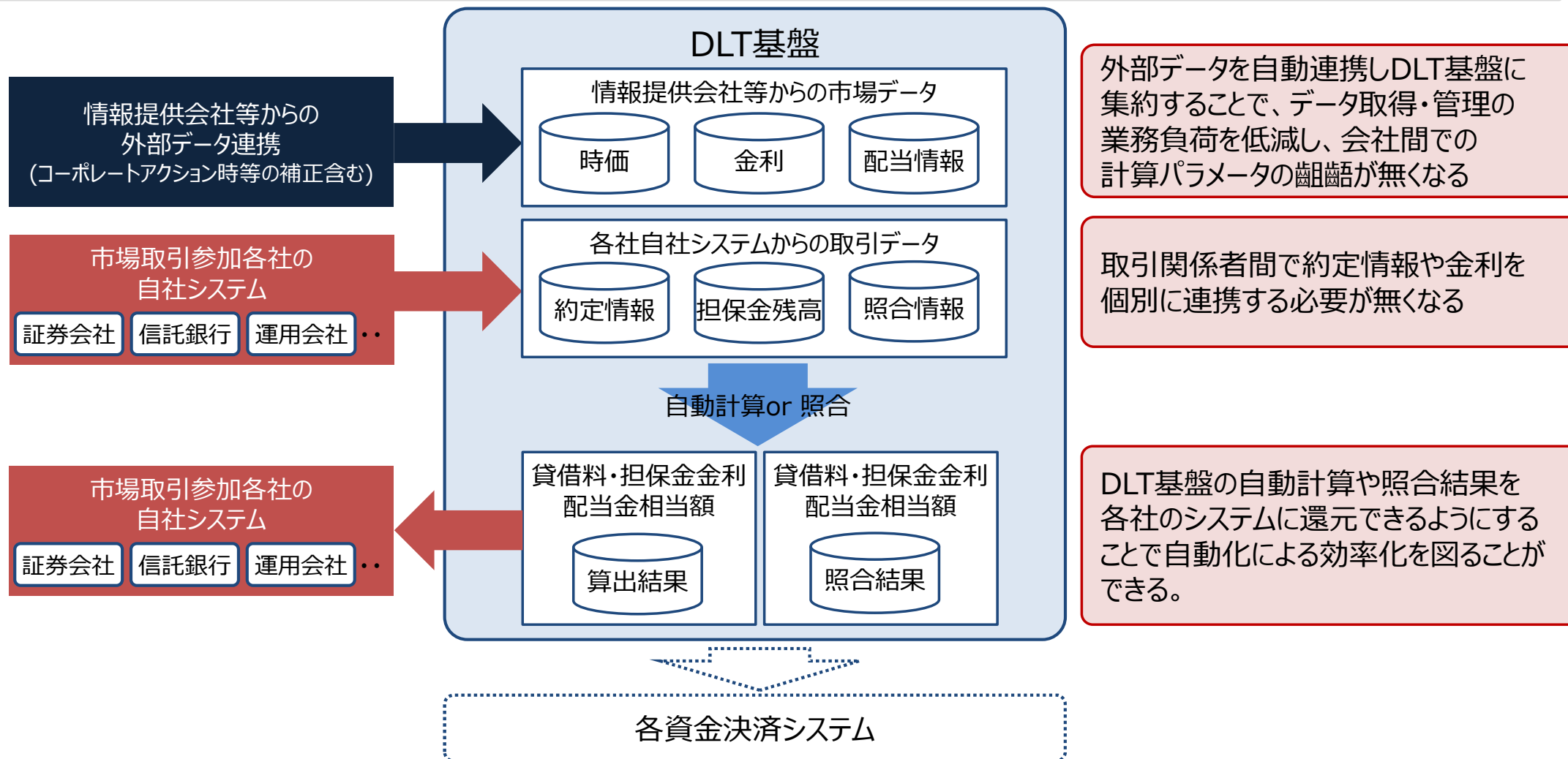
自動計算のパラメータを選択できるようにすることで、一定の柔軟性をもたせることができる

※SC: Special Collateral, GC: General Collateral



-課題3 照合において必要なデータの連携-

- 各計算の要素となるデータをDLT基盤上に自動的に連携し集約することで、各データの管理業務や、取引関係者間のコミュニケーションの効率化を図る。また、時価の補正なども一元的に行う。
- DLT基盤から照合結果/計算結果は、各社の自社システムに連携することで、業務の効率化を図る。また、将来的な拡張として、照合済みの貸借料等の資金振替について、各資金決済のインフラへの連携も視野に入れる。

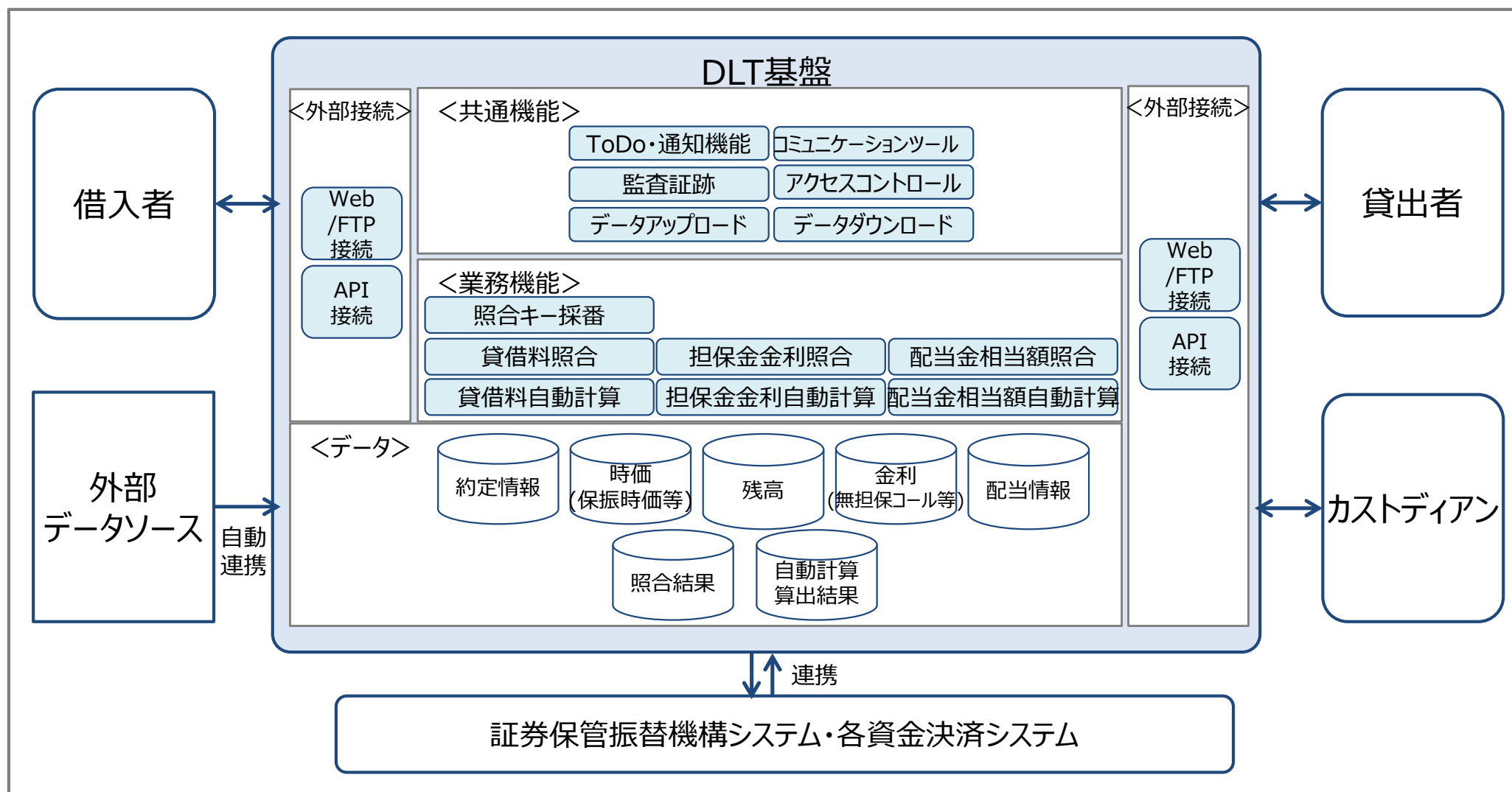




# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 DLT基盤による将来像実現イメージ

To-Be

- DLT基盤に貸借料・担保金金利・配当金相当額に関するデータを集約し、照合機能や自動計算機能を具備させることで、業務効率化を図る。
- 将来的な拡張としては、貸借料・担保金金利・配当金相当額の決済連携までを視野に入れる。



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務機能

To-Be

機能分類	機能名	概要	主なユーザ
共通	コミュニケーション	取引関係者間の連絡	すべて
	通知	ステータス変更時、登録情報変更時の取引関係者への通知（通知先は事前に各機能にて設定）	すべて
	アクセスコントロール	各機能にて設定された内容に応じたアクセスコントロール	すべて
	監査証跡	アクセス履歴などの監査証跡	すべて
	ダウンロード	各種情報のダウンロード	すべて
	アップロード	各種情報のアップロード	すべて
	外部接続	保振システムや各社の自社システムとの接続(API等の公開を想定)、時価等の市場データとの連携	すべて
ダッシュボード	ToDo管理	各種通知に基づくToDo管理（到着順・相手毎などのソート・フィルタリング、ToDoの潰し込みが可能）	すべて
	Information	オペレーションを必要としない参考情報の受信	すべて
照合機能	照合キー採番	照合において取引関係者間でファンドや取引を特定するためのキー情報の採番	取引関係者
	貸借料照合 (アブルーバル方式)	各社の自社システムにて計算した貸借料の照合データを登録し、取引相手は登録された照合データを確認し、承認/非承認を行う（日次/月次）	取引関係者
	担保金金利照合 (アブルーバル方式)	各社の自社システムにて計算した担保金金利の照合データを登録し、取引相手は登録された照合データを確認し、承認/非承認を行う（日次/月次）	取引関係者
	配当金相当額照合 (アブルーバル方式)	各社の自社システムにて計算した配当金相当額の照合データを登録し、取引相手は登録された照合データを確認し、承認/非承認を行う（随時）	取引関係者
	貸借料照合 (セントラルマッチング方式)	各社の自社システムにて計算した貸借料の照合データを貸出者、借入者双方が登録し、DLT基盤内で照合を行う。照合結果は双方に通知され、承認/非承認を行う（日次/月次）	取引関係者
	担保金金利照合 (セントラルマッチング方式)	各社の自社システムにて計算した担保金金利の照合データを貸出者、借入者双方が登録し、DLT基盤内で照合を行う。照合結果は双方に通知され、承認/非承認を行う（日次/月次）	取引関係者
	配当金相当額照合 (セントラルマッチング方式)	各社の自社システムにて計算した配当金相当額の照合データを貸出者、借入者双方が登録し、DLT基盤内で照合を行う。照合結果は双方に通知され、承認/非承認を行う（随時）	取引関係者
自動計算機能	計算条件の補正	採用する時価や残高等、計算条件を補正する	取引関係者
	貸借料自動計算	約定データ、時価等から貸借料を自動で計算し、取引関係者に通知。双方は結果を確認し、承認/非承認を行う	取引関係者
	担保金金利自動計算	約定データ、残高、金利等から担保金金利を自動で計算し、取引関係者に通知。双方は結果を確認し、承認/非承認を行う	取引関係者
	配当金相当額自動計算	約定データ、配当情報等から配当金相当額を自動で計算し、取引関係者に通知。双方は結果を確認し、承認/非承認を行う	取引関係者

＜株券貸借情報＞

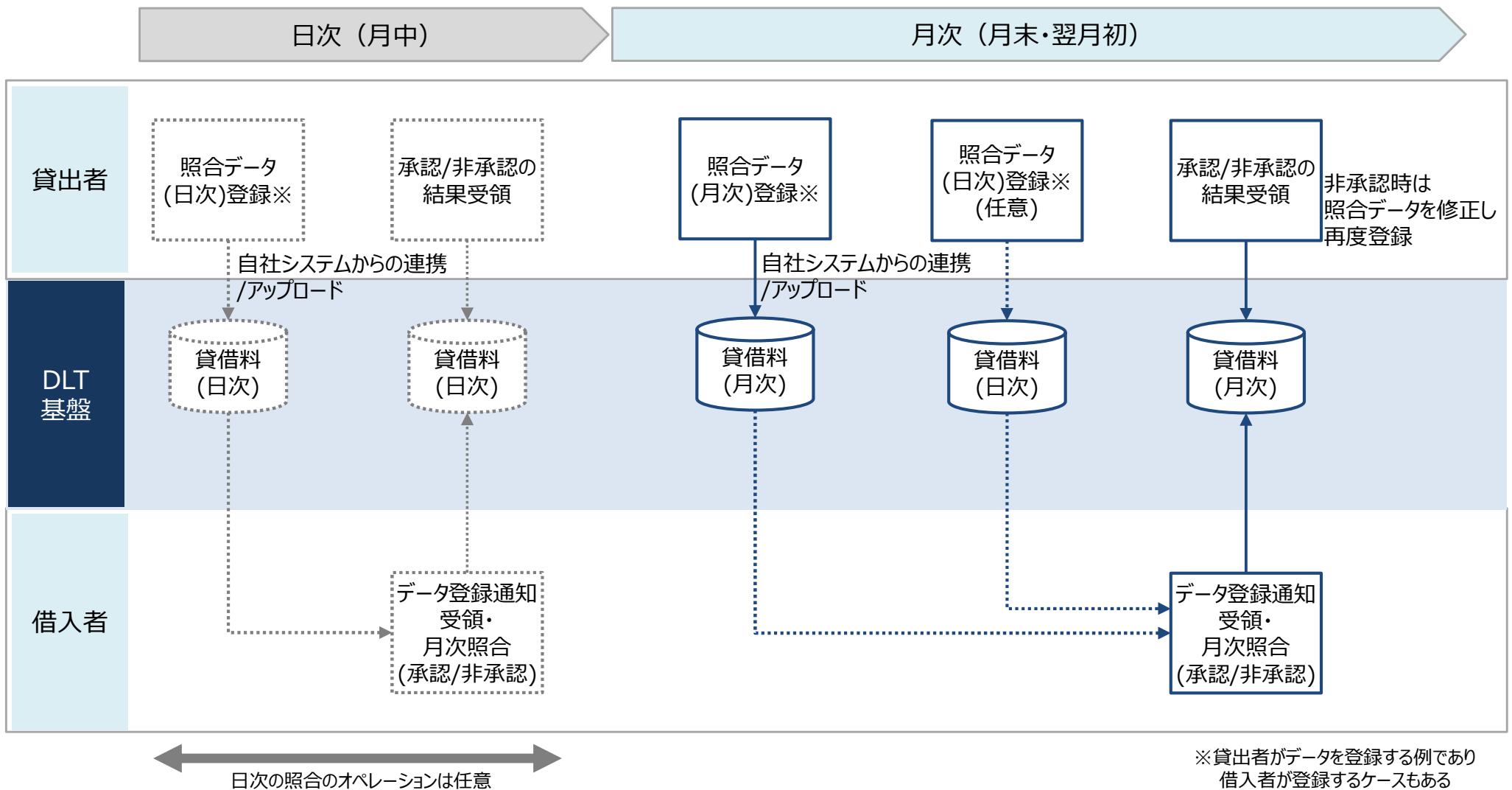
照合時に取引関係者間で連携する情報、貸借料、担保金金利、配当金相当額の算出に必要な情報

情報種類		概要
照合に必要な情報	アプルーバル方式データ	<b>アプルーバル方式による照合を行うための情報</b> <主な情報> 「照合データ(登録データ)」「承認結果(承認/非承認)」
	セントラルマッチング方式データ	<b>セントラルマッチング方式による照合を行うための情報</b> <主な情報> 「照合データ(登録データ)」「照合結果」「承認結果(承認/非承認)」
自動計算に必要な情報	共通データ	<b>自動計算に必要な共通的な情報</b> <主な情報> 約定データ(「取引相手」「取引種類(SC/GC、コーラブル/ノンコーラブル)」「貸借数量」「貸借料率」 「貸出形態(オンデマンド/エクスクルーシブ)・・・)」「計算条件」「承認結果」
	貸借料算出データ	<b>貸借料を自動計算するための情報</b> <主な情報> 時価(「保振時価(前日/当日)」「終値」「情報提供会社が提供する時価」・・・)
	担保金金利算出データ	<b>担保金金利を自動計算するための情報</b> <主な情報> 「担保金残高(前日残高/当日残高)」「金利(無担保コールレート/信託独自)」
	配当金相当額算出データ	<b>配当金相当額を自動計算するための情報</b> <主な情報> 「配当情報(情報提供会社が提供する配当情報/決算短信)」

“株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応  
 将来像における業務プロセス –アプルーバル方式による照合（貸借料）–

To-Be

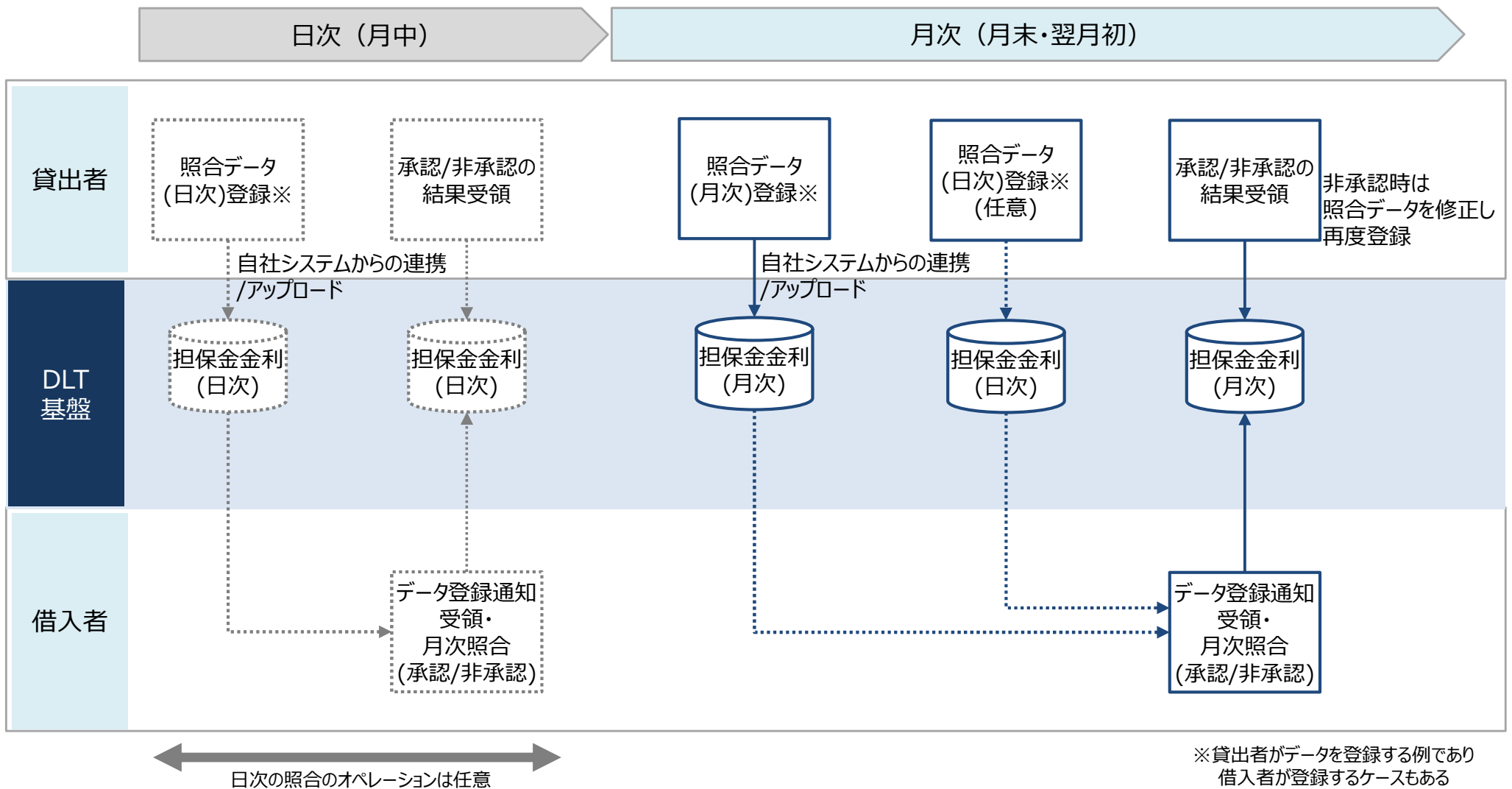
- 各社の自社システムにて計算した貸借料の照合データを登録し、取引相手は登録された照合データを確認し、承認/非承認を行う。（現行のメールにて行われている承認のプロセスをDLT基盤上で行う。）



“株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応  
 将来像における業務プロセス –アプルーバル方式による照合（担保金金利）–

To-Be

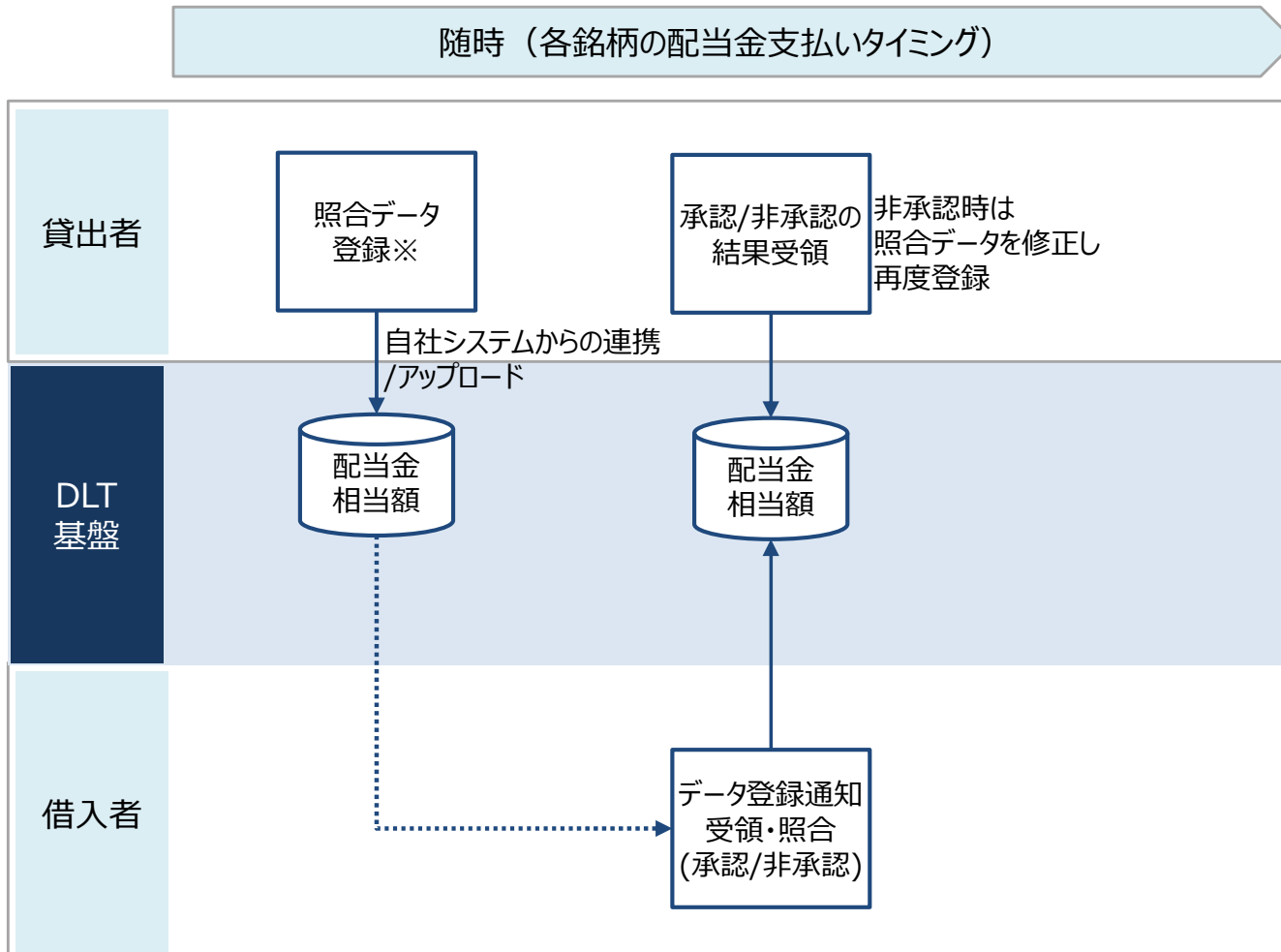
- 各社の自社システムにて計算した担保金金利の照合データを登録し、取引相手は登録された照合データを確認し、承認/非承認を行う。（現行のメールにて行われている承認のプロセスをDLT基盤上で行う。）



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス –アプルーバル方式による照合（配当金相当額）–

To-Be

- 各社の自社システムにて計算した配当金相当額の照合データを登録し、取引相手は登録された照合データを確認し、承認/非承認を行う。（現行のメールにて行われている承認のプロセスをDLT基盤上で行う。）

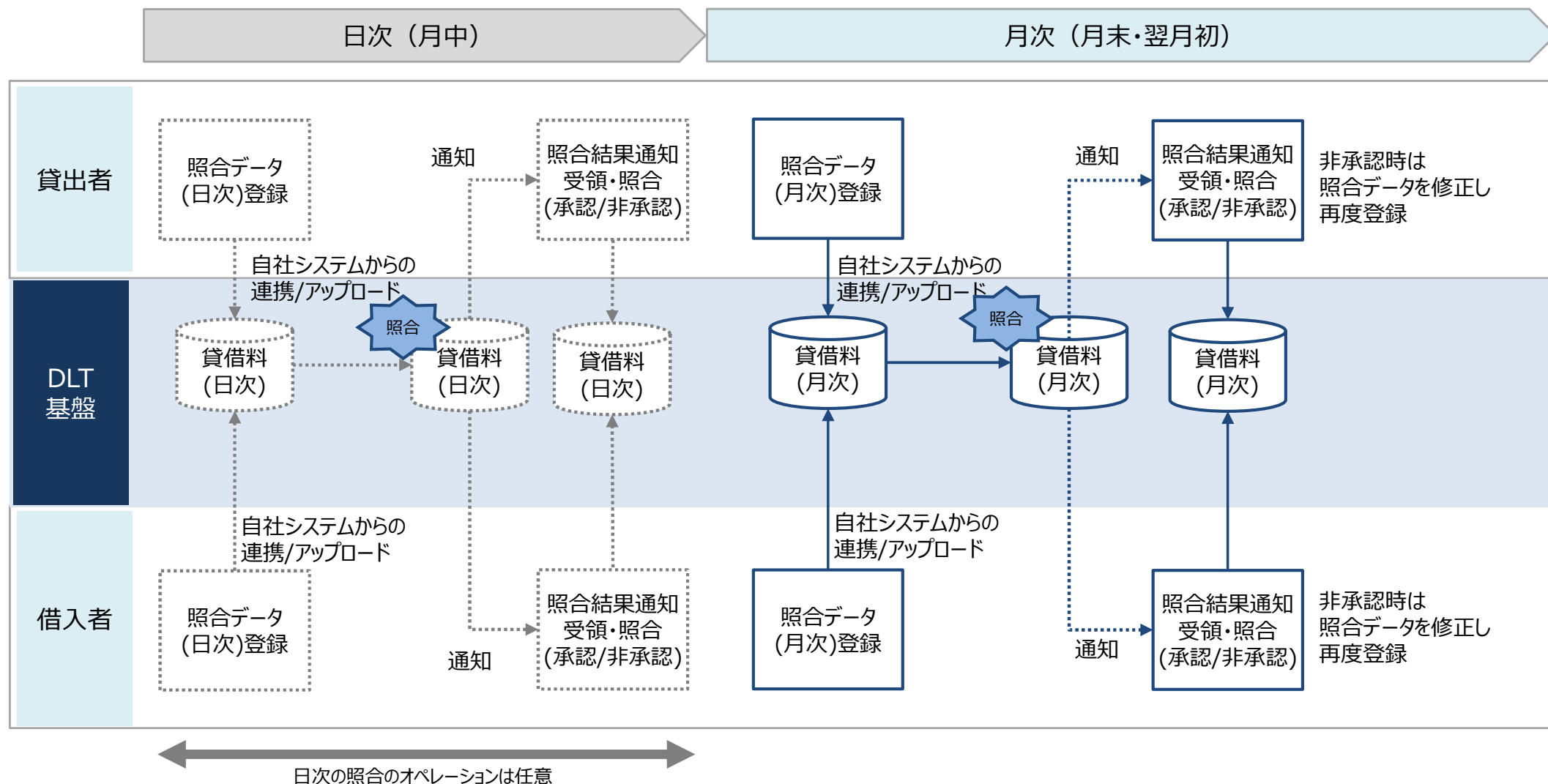




# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス – セントラルマッチング方式による照合（貸借料） –

To-Be

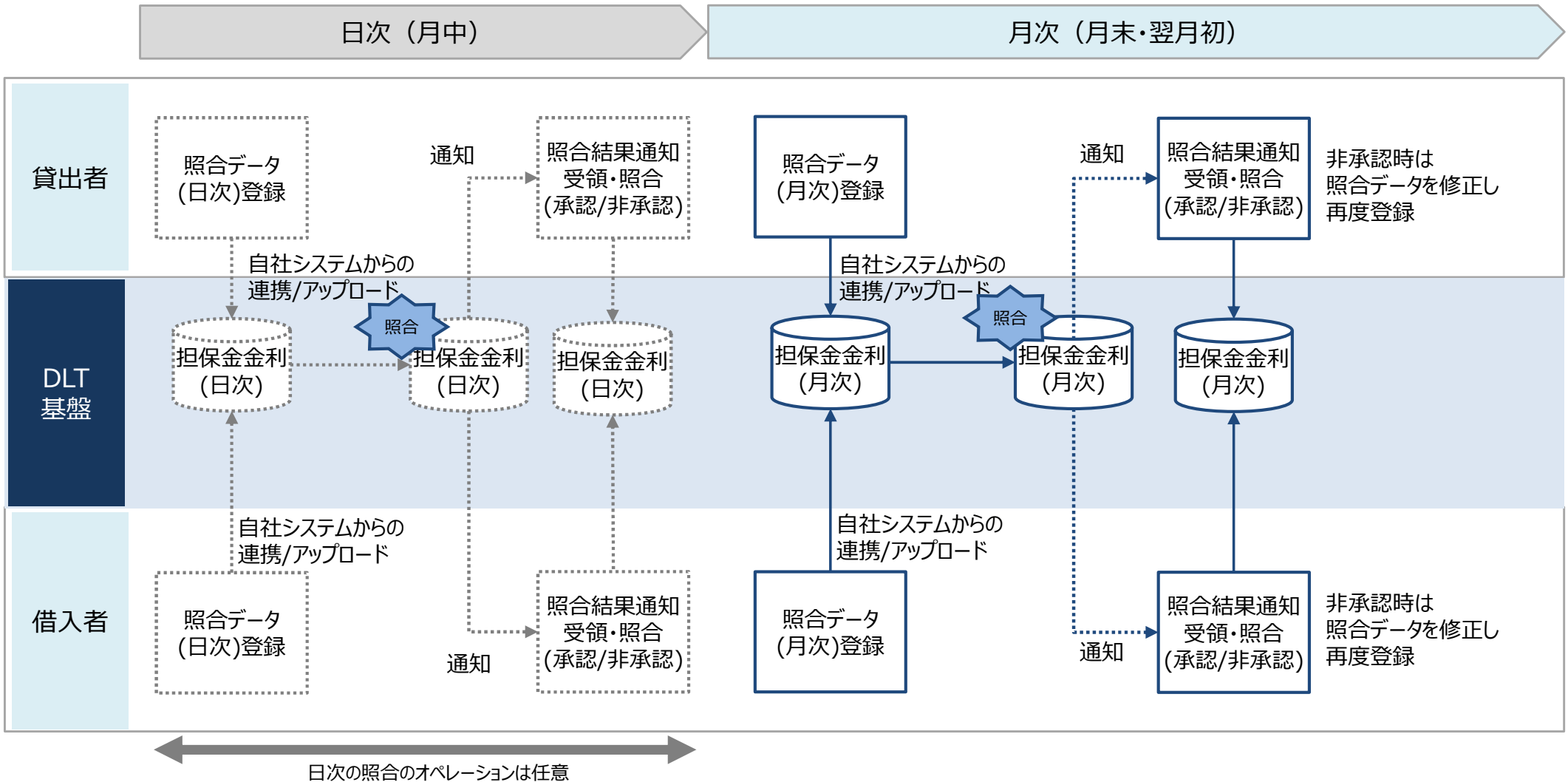
- 各社の自社システムにて計算した貸借料の照合データを貸出者、借入者双方が登録し、DLT基盤内で照合を行う。照合結果は双方に通知され、承認/非承認のオペレーションを行う。
- 日次にて照合を行える仕組みとするが、月次においても承認/非承認の確認を行い資金決済額を確定させる。



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス – セントラルマッチング方式による照合（担保金金利） –

To-Be

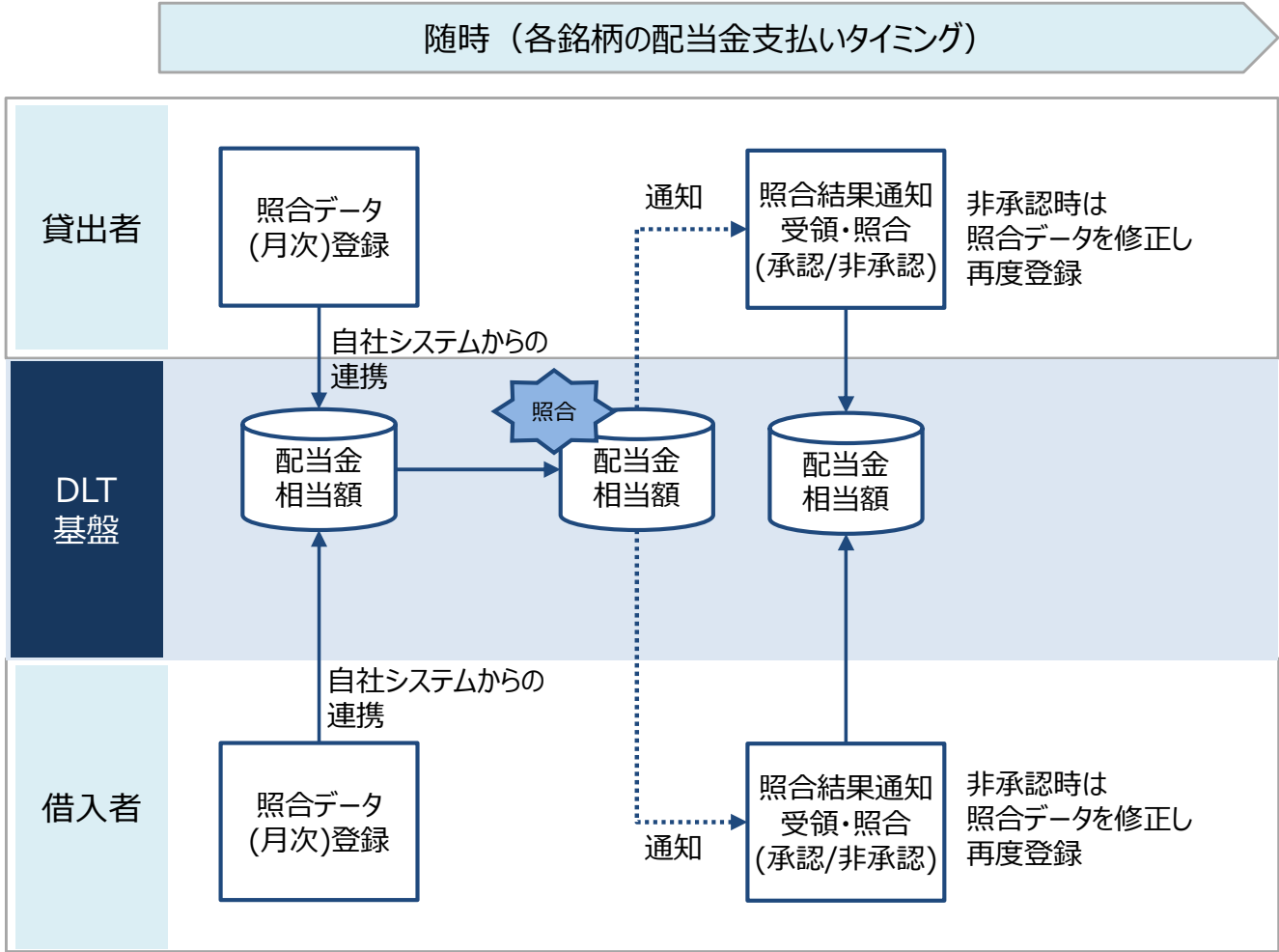
- 各社の自社システムにて計算した担保金金利の照合データを貸出者、借入者双方が登録し、DLT基盤内で照合を行う。照合結果は双方に通知され、承認/非承認のオペレーションを行う。
- 日次にて照合を行える仕組みとするが、月次においても承認/非承認の確認を行い資金決済額を確定させる。



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス – セントラルマッチング方式による照合（配当金相当額） –

To-Be

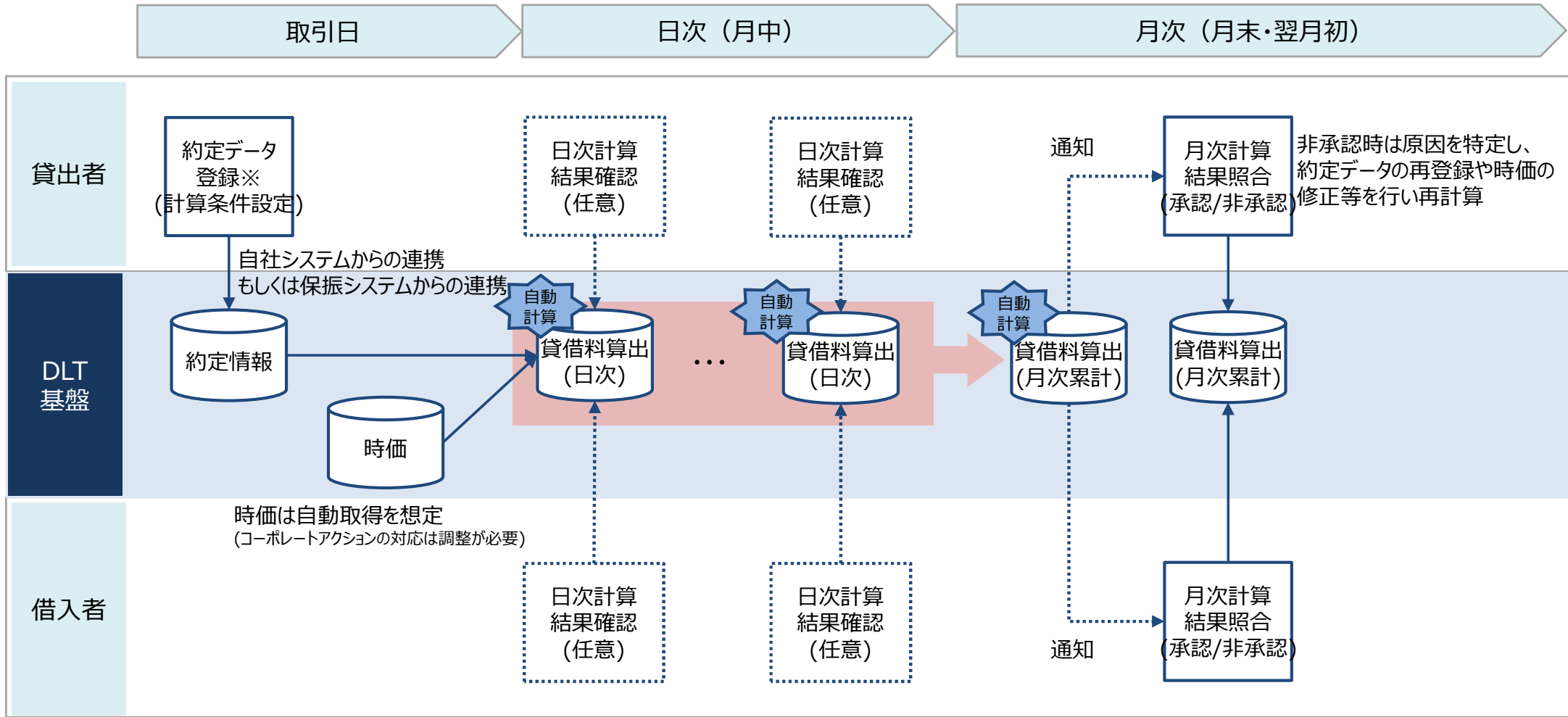
- 各社の自社システムにて計算した配当金相当額の照合データを貸出者、借入者双方が登録し、DLT基盤内で照合を行う。照合結果は双方に通知され、承認/非承認のオペレーションを行う。
- なお、配当金相当額は支払タイミングの変更などが主な課題であり、照合における金額の相違は多くないことから、セントラルマッチング方式が必要ないケースも考えられる。



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス -自動計算（貸借料）-

To-Be

- 取引日に約定情報と計算条件が設定されることで、日次、月次の貸借料はDLT基盤上で自動計算される。
- 月次の貸借料に対しては貸出者、借入者双方が確認し承認を行う。



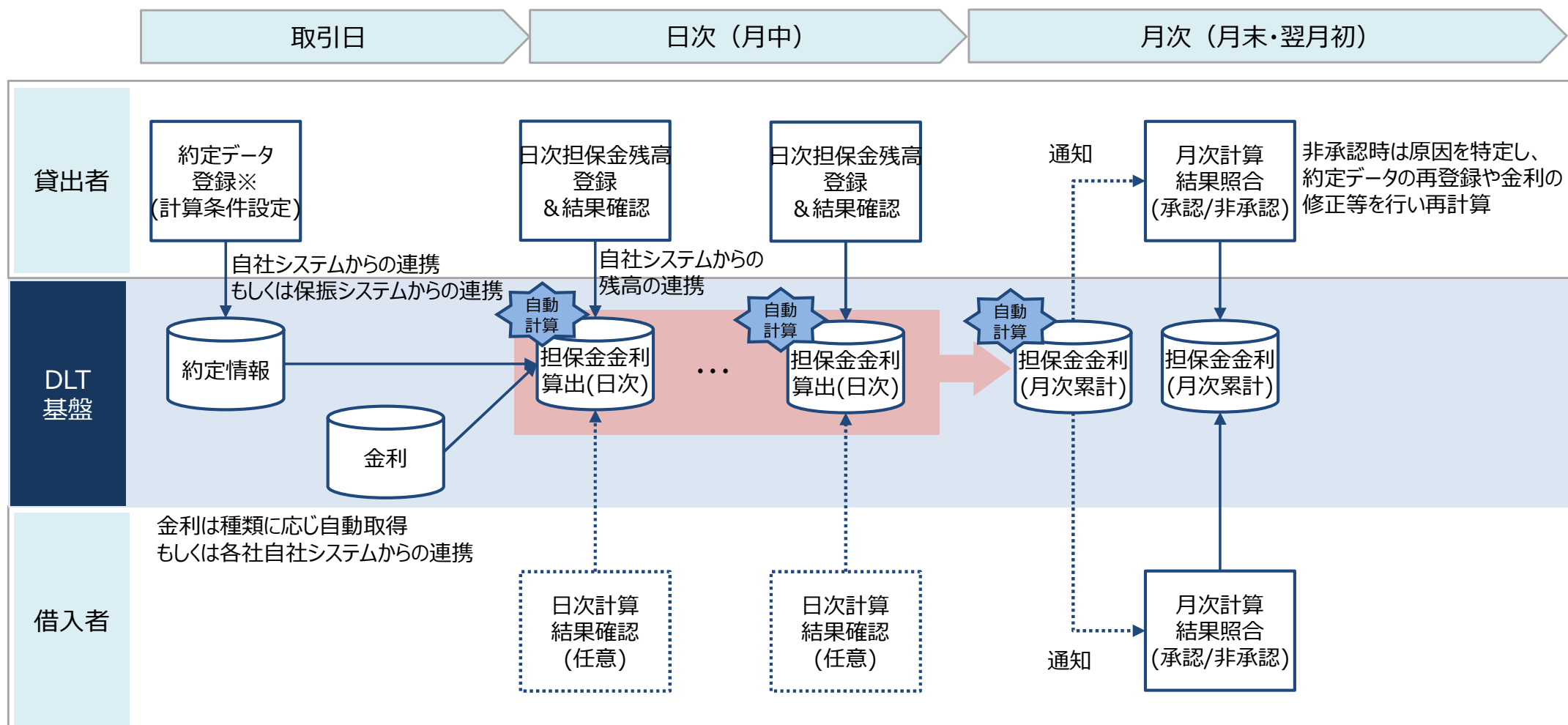
※貸出者がデータを登録する例であり  
借入者が登録するケースもある

日次の残高登録は不要

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス -自動計算（担保金金利）-

To-Be

- 取引日に約定情報と計算条件が設定されることで、月次の貸借料が算出されるまでDLT基盤上で自動計算がされる。
- 月次の貸借料に対しては貸出者、借入者双方が確認し承認を行う。

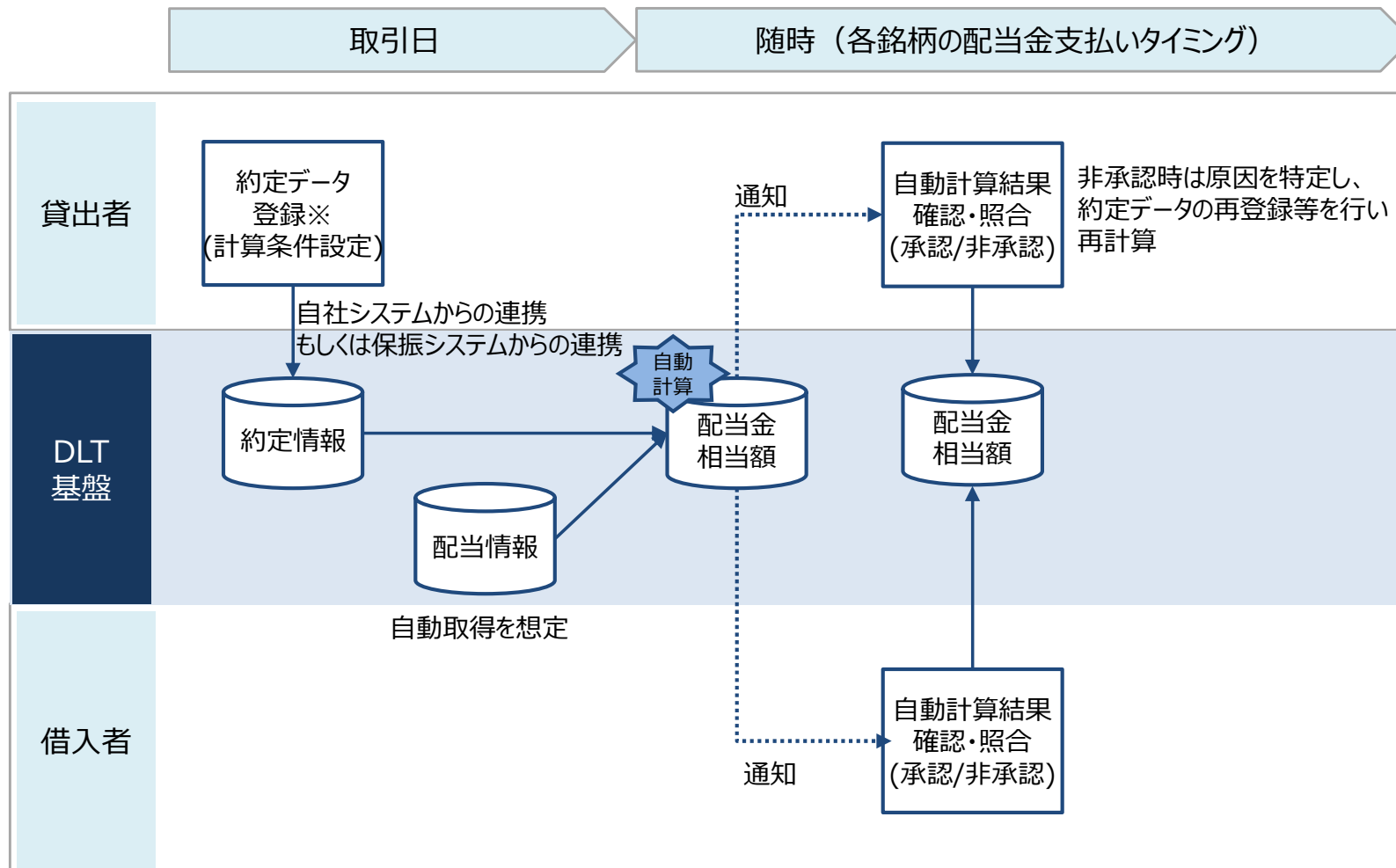


※貸出者がデータを登録する例であり  
借入者が登録するケースもある

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス -自動計算（配当金相当額）-

To-Be

- 取引日に約定情報と計算条件が設定されることで、配当金相当額が自動で算出される。



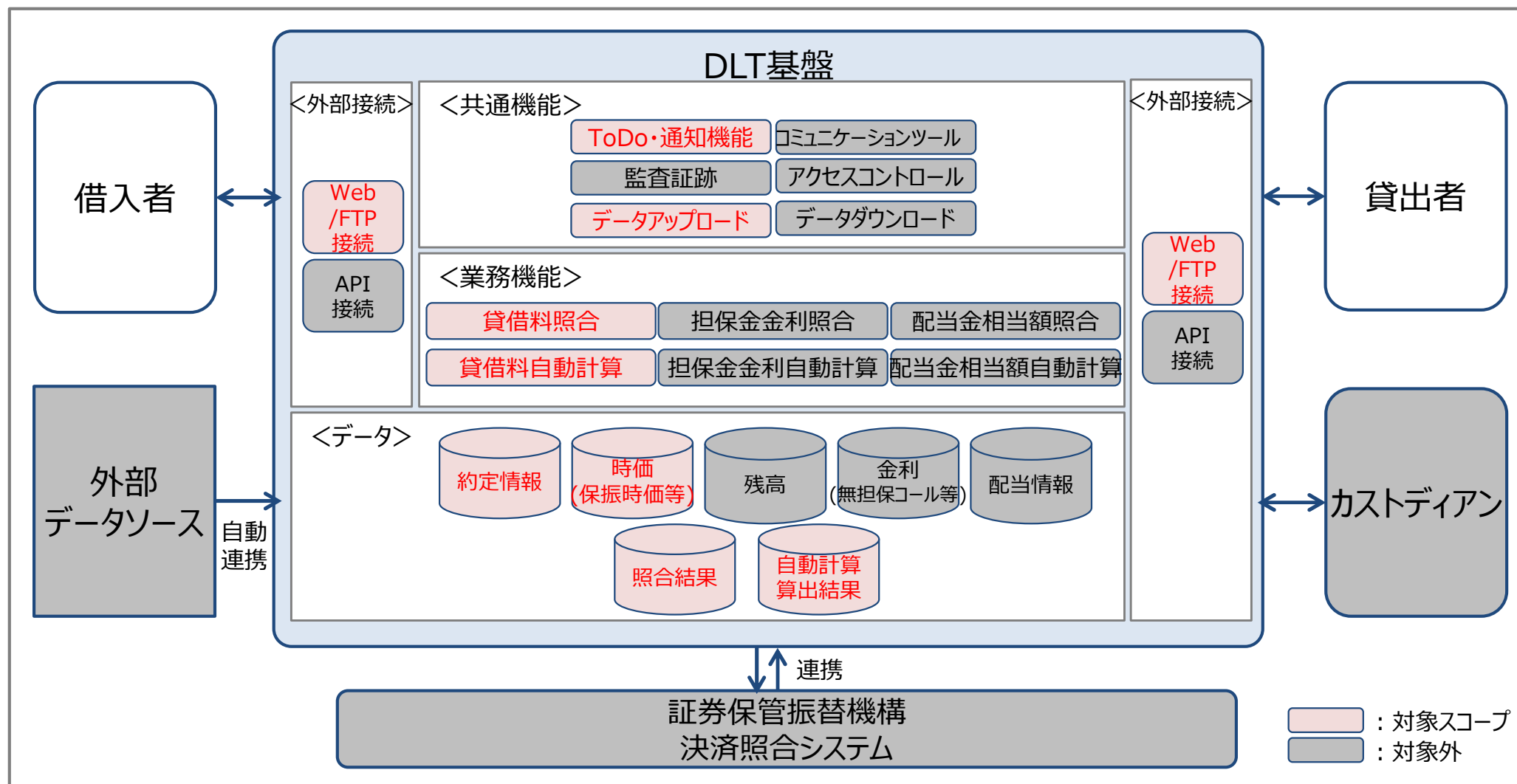
※貸出者がデータを登録する例であり  
借入者が登録するケースもある



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の実機検証 実機検証の狙い・スコープ

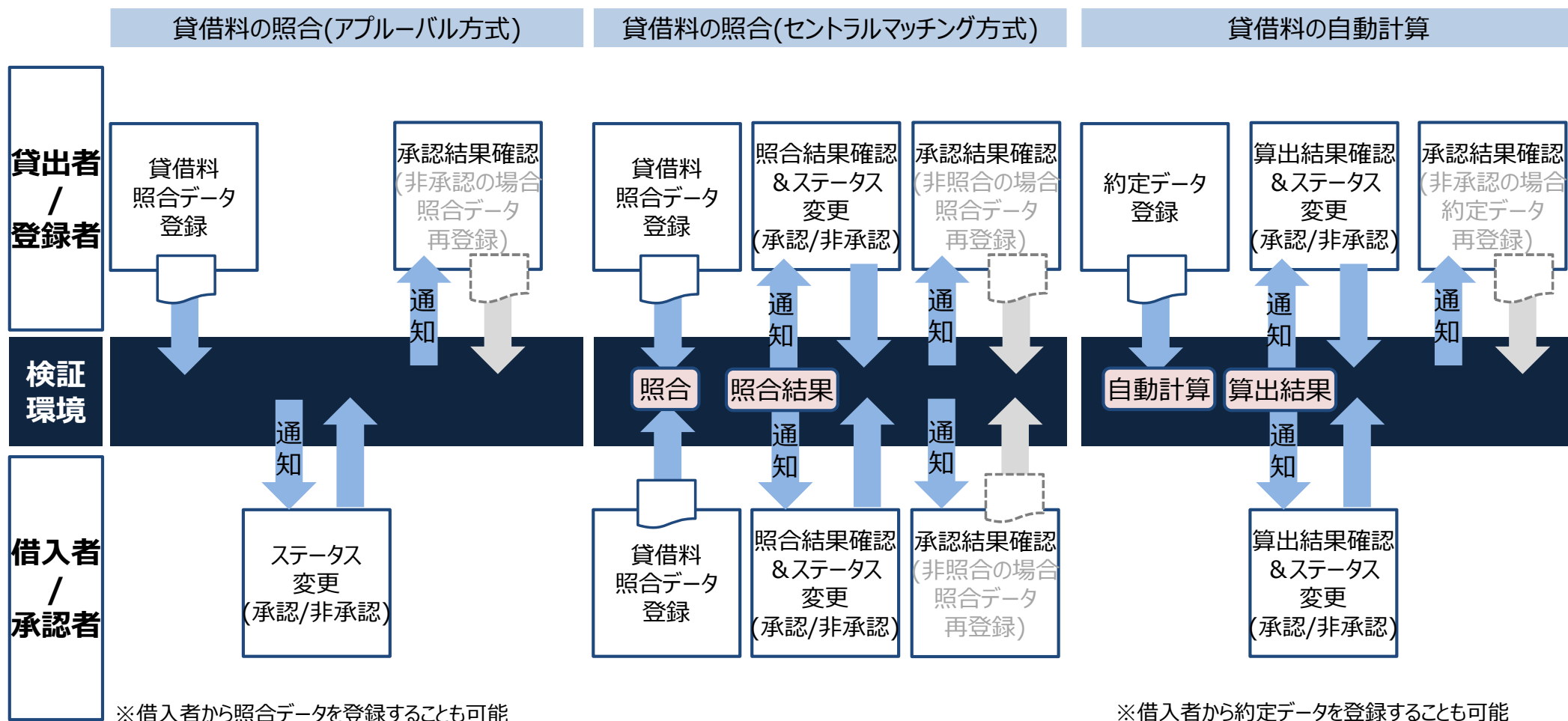
- 実機検証においては、業務機能として貸借料の照合と自動計算機能に対象を絞って検証を行った。
- また、共通機能としてはToDo・通知管理やデータアップロードの検証を行った。

## 実機検証のスコープ



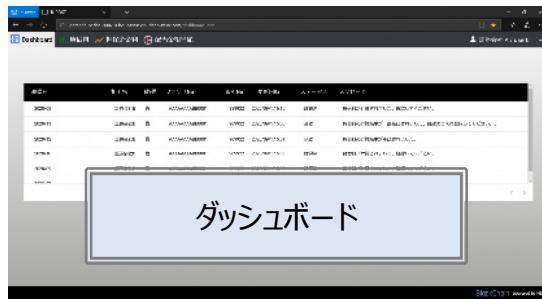
# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の実機検証 実機検証の概要

- 貸借料の照合(アプルーバル方式、セントラルマッチング方式)、貸借料の自動計算機能に関して検証を行った。
- 各方式を用いて、照合業務におけるコミュニケーションや照合作業の効率化について検証した。

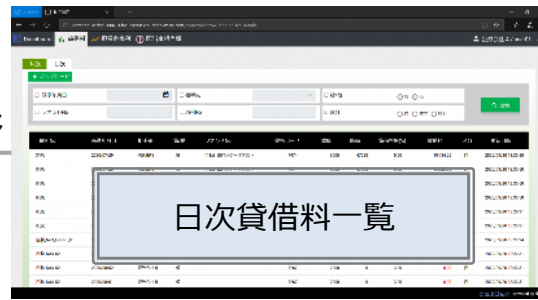


# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の実機検証

## 実機検証の概要 -画面構成-



タブにて遷移



- 日次の貸借料情報が全て閲覧可能  
(照合用に登録したデータ、  
自動計算用どちらも確認できる)




- 日次の貸借料情報のアップデート  
(照合の際は照合用データ、  
自動計算の際は約定データをアップロード)



- 月次の貸借料情報が全て閲覧可能  
(照合用に登録したデータ、  
自動計算用どちらも確認できる)



- 月次の貸借料情報のアップデート  
(照合用データをアップロード)

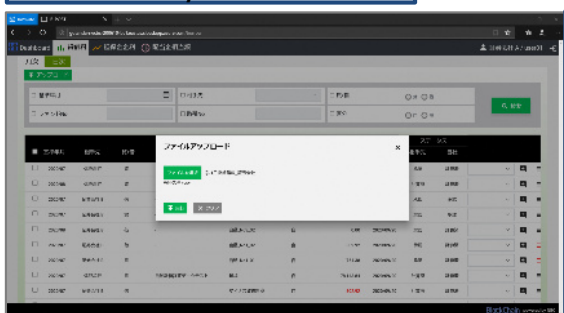
 : 検証対象画面

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の実機検証

## 実機検証の概要 -画面イメージ (アプルーバル照合) -

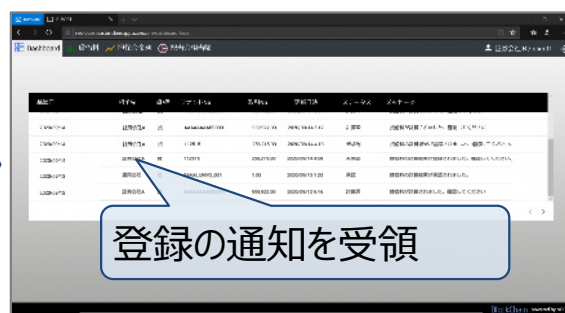
- 現行の貸借料の照合業務の際にメールで行っているコミュニケーションのDLT基盤での対応の確認として、片方の会社(借入者/貸出者)にてアップロードした照合データを、取引相手の会社にて承認するというオペレーションの検証を行った。

貸出者/借入者※



月次貸借料用データ  
アップロード

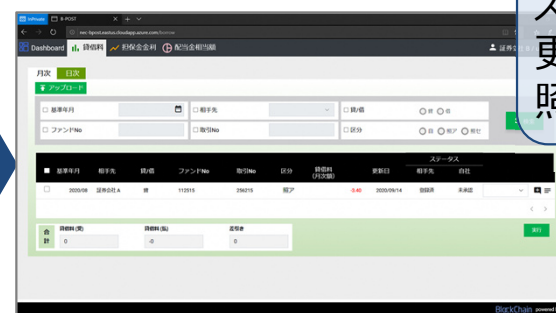
貸出者/借入者※



登録の通知を受領

ダッシュボード

貸出者/借入者(取引相手)



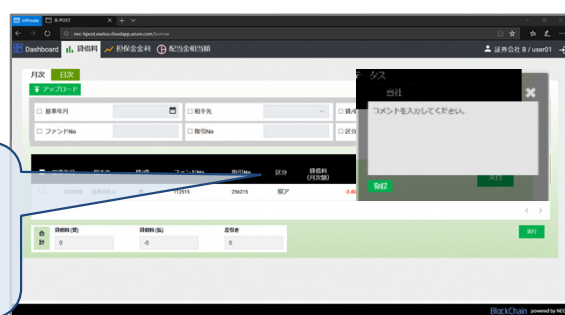
月次貸借料一覧

ステータスを「承認」に  
更新することで  
照合業務が完了する。

承認時

非承認時

貸出者/借入者(取引相手)



ステータスを「非承認」に更新し、  
非承認の理由コメントを書き込む

月次貸借料一覧

貸出者/借入者(登録者)



非承認の通知を受領

ダッシュボード

貸出者/借入者

データ再登録

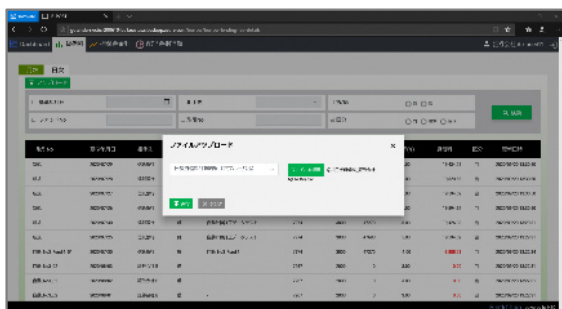
※貸出者/借入者のどちらかが照合データのアップロードを行い、  
取引相手企業が承認を行う。  
(貸出者、借入者どちらからの登録も可能)

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の実機検証

## 実機検証の概要 -画面イメージ (セントラルマッチング照合) -

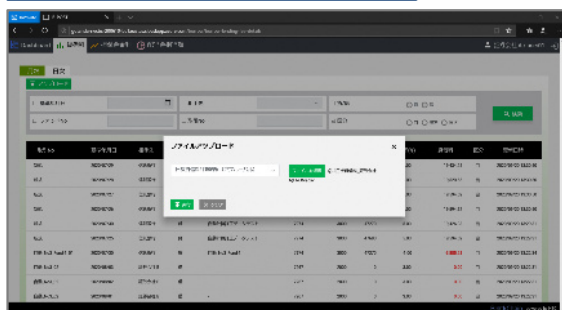
- 貸出者、借入者双方で貸借料の日次照合データをアップロードし、DLT基盤上で自動的にマッチングを行った結果を、双方に通知し、月次の集計結果を承認するというオペレーションの検証を行った。

貸出者



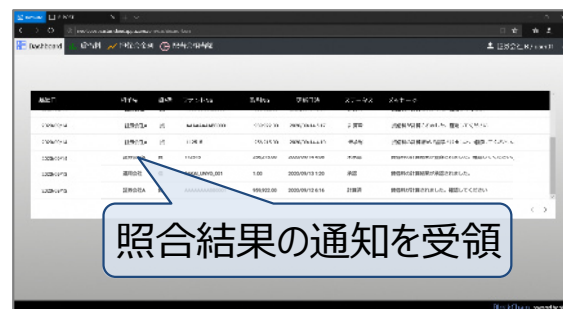
日次貸借料用データ  
アップロード

借入者



日次貸借料用データ  
アップロード

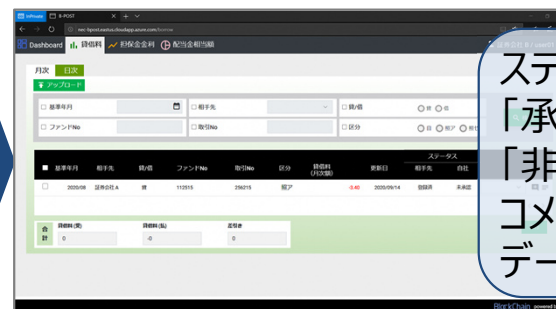
借入者・貸出者



照合結果の通知を受領

ダッシュボード

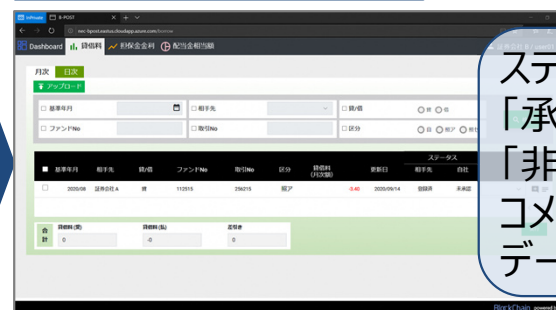
貸出者



月次貸借料一覧

ステータスを  
「承認/非承認」に更新  
「非承認」の場合は  
コメントを書き込み  
データ再登録

借入者



月次貸借料一覧

ステータスを  
「承認/非承認」に更新  
「非承認」の場合は  
コメントを書き込み  
データ再登録

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”の実機検証

## 実機検証の概要 -画面イメージ (自動計算) -

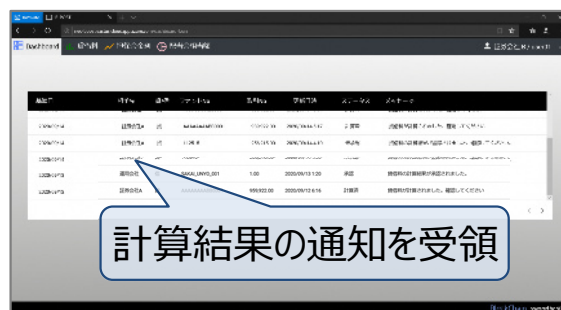
- 貸出者、借入者のいずれかがアップロードした約定データと、予めDLT基盤に登録された時価データを基に DLT基盤上で自動で貸借料が算出され、双方で計算結果を確認し、承認するオペレーションの検証を行った。

貸出者/借入者※



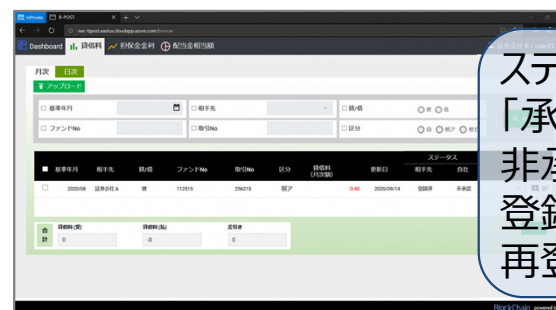
日次貸借料用データ  
アップロード

貸出者・借入者※



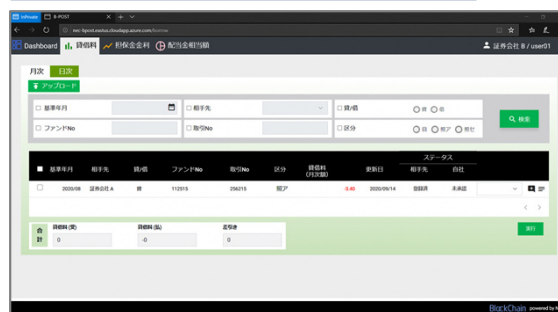
ダッシュボード

貸出者/借入者(登録側)



月次貸借料一覧

貸出者/借入者(取引相手)

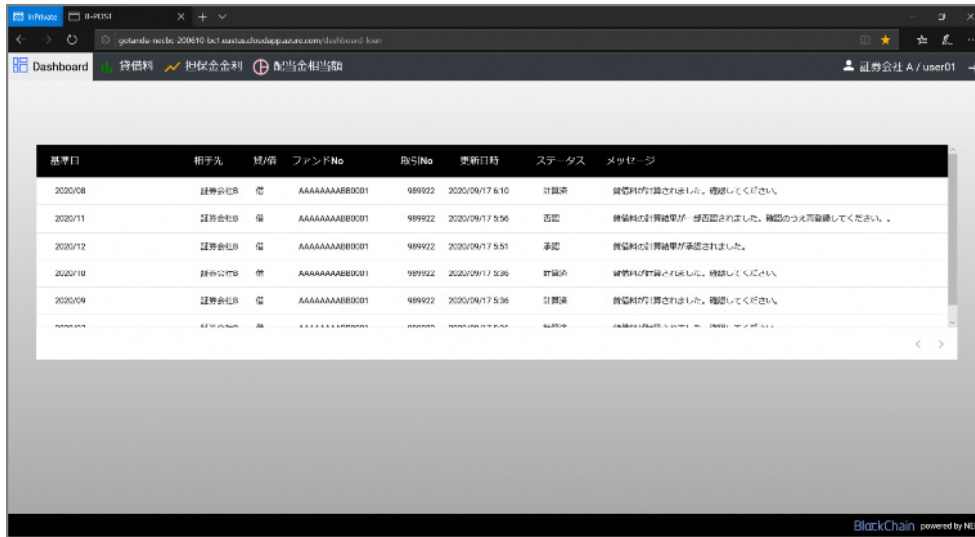


月次貸借料一覧

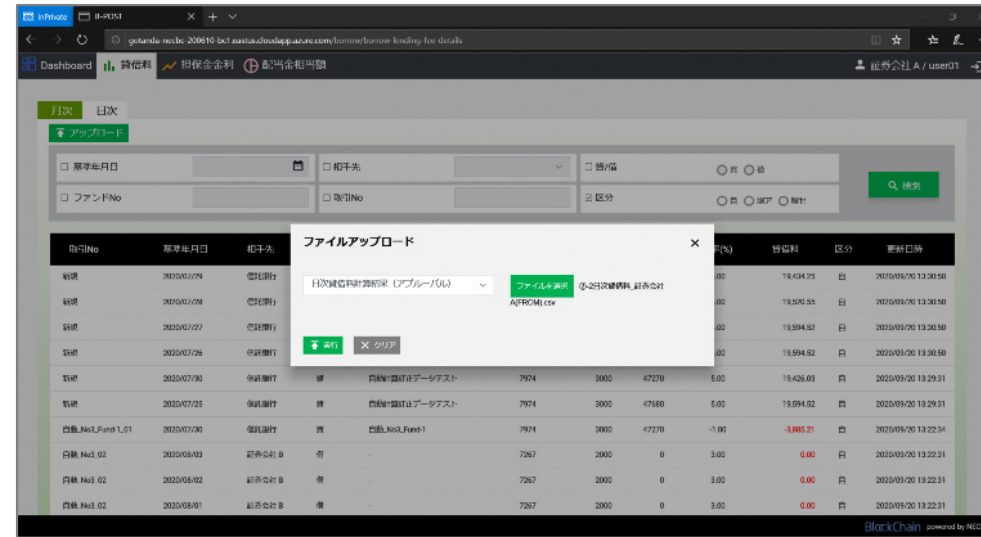
※貸出者/借入者のどちらかが約定データのアップロードを行う。  
(貸出者、借入者どちらからの登録も可能)



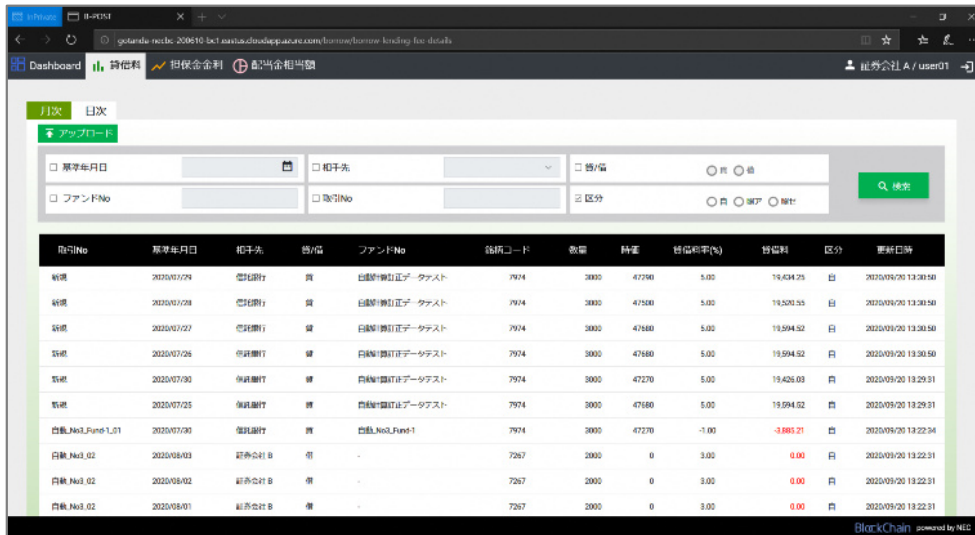
# [参考]実機検証における画面イメージ(1/2)



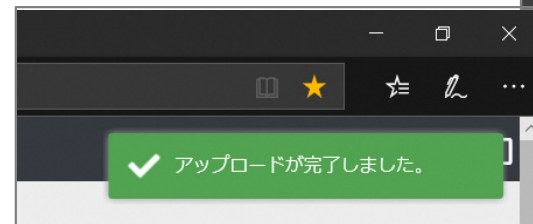
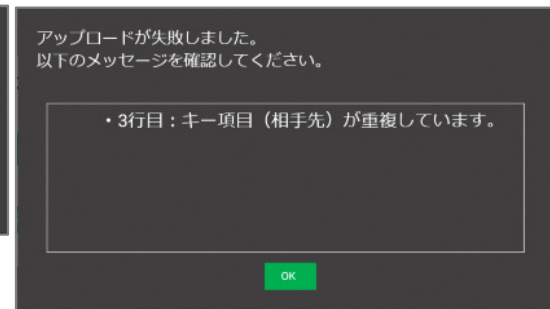
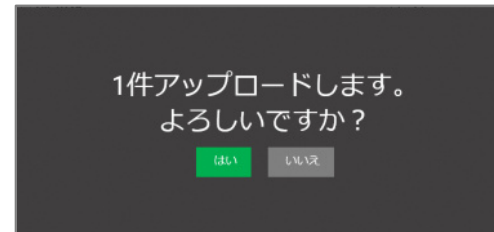
ダッシュボード



日次貸借料アップロード

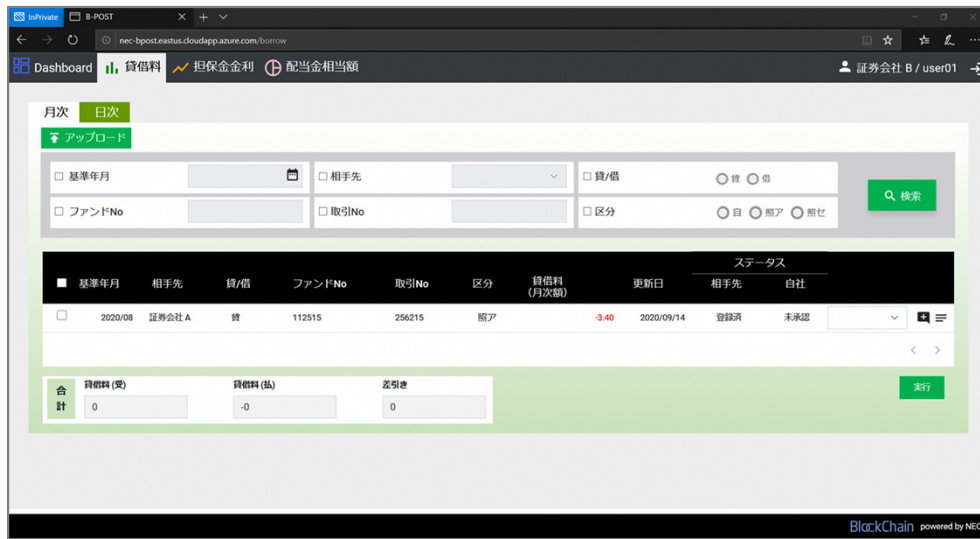


日次貸借料一覧

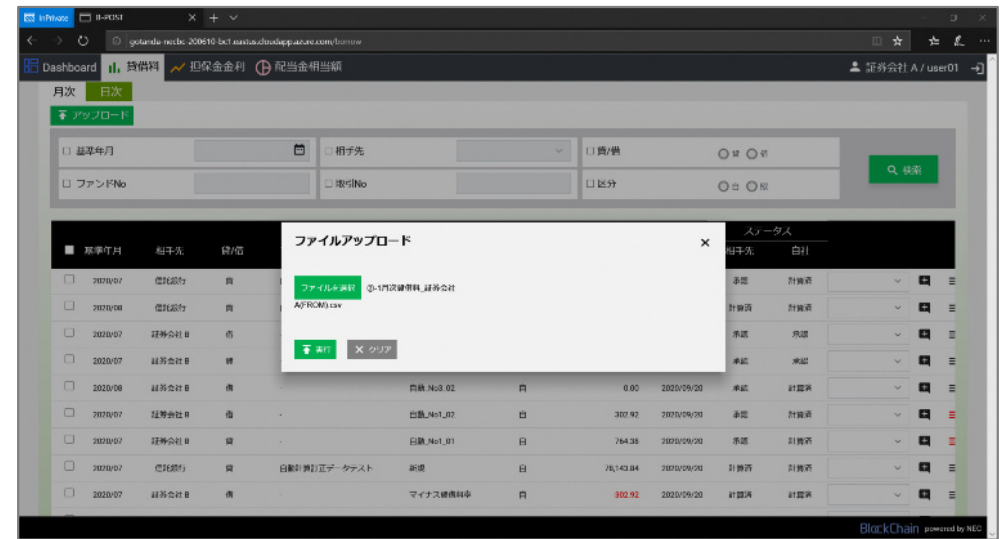


データアップロード時ポップアップ

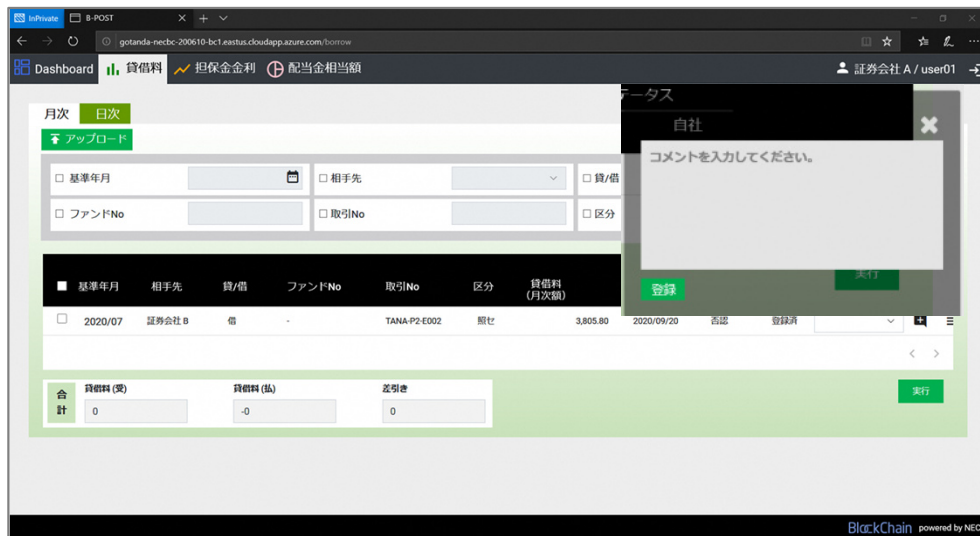
## [参考]実機検証における画面イメージ(2/2)



月次貸借料一覧



月次貸借料  
アップロード



コメント入力機能

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約 実機検証における評価

- 本プロジェクトでの試みとして検証したDLT基盤での照合機能について、証券会社・信託銀行・運用会社・証券金融会社・ITサービスプロバイダーの参加者より実機検証参加企業によるアンケートを実施した。
- 次頁以降にて記載の通り、検討すべき事項はあるものの、業務改善の可能性があることが確認された。

## 実機検証で

### 新たな試みを行った機能

### 価値を感じられた点（アンケート結果の一部）

共通		価値を感じられた点（アンケート結果の一部）
照合方式	アプルーバル方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ リアルタイムで同じ結果等を共有できているため、安心感がある。</li> <li>✓ 操作対象に直接設定できるコメント機能は相手方とコミュニケーションを取りやすい。(否認理由がシステム上で確認できる。)</li> <li>✓ ダッシュボードを参照すればやるべきことが表示され、新規の情報に気づきやすい。</li> </ul>
	セントラルマッチング方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 登録者はすべての取引相手の月次貸借料データを1つのファイルでアップロードできる。</li> <li>✓ メール業務が自動化される中で、やりとりされる情報が統一化されること。</li> <li>✓ 現在は大半がメールでのやりとりのため相手先により様式が異なりマニュアル作業が発生しているが、照合方式が統一されることで後続作業がスムーズになることが予想される。</li> <li>✓ 業務フローが簡易であり、フォーマットも共通であるため将来像の目的に沿った業務フローであると感じた。</li> </ul>
	自動計算方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ DLT基盤で保有する市場データをもとに計算が行われるので、時価の相違が原因で貸借料金額の不一致が発生することがない。</li> <li>✓ 承認以外自動化されており、作業削減としてはもっとも理想的な点。</li> <li>✓ 日次の約定ベースでの貸借料計算になるため相違がある場合も早期に解消でき、月次集計の負担が大幅に軽減される点。</li> <li>✓ このシステムを使う会社が多数あれば、各社で貸借料管理をしなくてもよくなる可能性がある。</li> <li>✓ 将来的には、当DLT基盤がセントラル・カウンターパーティのような機能を担い、自動計算後通知できるようになる可能性を感じた。</li> <li>✓ 配当金相当額の計算について、現状は各社の有する配当金情報が異なり計算結果が一致しないことがあるため、本サービスで配当金情報のマスタを持ってそれに基づいて自動計算できるようであれば、価値を感じる。</li> </ul>

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – コミュニケーション –

- 貸借料・担保金金利の照合、及び、配当金相当額の照合業務においては、インフラが存在しないことから、メール等によるコミュニケーションとなっている。

大分類	小分類	課題・要望
コミュニケーション	貸借料・担保金金利	月次の照合で取引相手の金額と相違が発生した場合は、1か月分の明細を確認しなければならず、期間を遡って確認するため時間を要している。
		貸借料、担保金等の数字は帳票による照合になっている。
		取引相手の確認ステータス（明細確認中、確認完了、メール見落とし、etc.）が分からないため、取引相手からの返答がない場合はメールや電話等で都度状況確認をする必要がある。
		[将来像]受託信託銀行も含め、貸借料照合の情報共有のコミュニケーションが簡単にできるようになると良い。
	配当金相当額	配当金支払開始日について、発行体よりショートノテイスでアナウンスや変更がされることがあり、その場合取引相手と金額照合済であれば照合のやり直しが発生する。 また、そのようなケースでは社内のデータベースへの外部ベンダーからの配当金情報の反映が遅れることが多く、確認に時間を要している。
		取引相手の確認ステータス（明細確認中、確認完了、メール見落とし、etc.）が分からないため、取引相手からの返答がない場合はメールや電話等で都度状況確認をする必要がある。
		配当率はDVPにおいてもマッチング項目では無いので、未だ相違が少なくない。また、業者間のやり取りはメールで行うため、管理が難しい。配当金支払いは日々の作業であるが、6月は該当銘柄が多く業務量も増える。
		配当金相当額は、受託銀行から証券会社へファンド、銘柄ごとに、入金予定日前に明細を連絡し、照合を実施しているが連絡手段はメールである。
	共通	権利配当に関連する業務が煩雑。
		メールでのやりとりとなっており、フォーマットも各社で異なる。
		[将来像]取引相手とのコミュニケーションは、不一致等がない場合は原則としてメール等を必要とせず、システム内の承認で完結したい。
		[将来像]取引相手側での処理ステータスが確認できるようになると良い。

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – 標準化 –

- 照合のフォーマットや、計算式が標準化されていないため、照合業務が煩雑化している。
- 計算式の標準化の課題に対しては、自動計算のニーズもある。

大分類	小分類	課題・要望
標準化	フォーマット	<p>各社様々なフォーマットで通知が行われる為、データ照合が難しくマニュアルで照合を行っている。 更に、業者間のやりとりはメール行うため、管理が難しい。 (ただし、月1回のイベントなので現時点では対応可能範囲。貸借料・担保金金利について計算方法がガイドラインに定められた事もあり、相違する事が減った為、以前よりは負担感はない。)</p> <p>配当金相当額については、ガイドラインに連絡フォーマットが定められたが、実際に使用している業者は少なく、各社のフォーマットであるため、データ照合が難しくマニュアルで対応を行っている。 [将来像]データフォーマットが統一されると良い。</p>
	計算式	<p>取引先によって使用する時価（JSCC時価/終値/投信時価）が異なる先があり、時価のずれにより計算差異が発生する場合がある。特に投信時価の場合は、ブローカーからは参照ができないため確認の手間がかかる。 端数処理による少額の差異が発生した際は、追加で電話/メールでのコミュニケーションや金額修正作業が発生する。</p> <p>配当金相当額について、割当日および配当金入金日に、当方システムで計算した数値と信託銀行側で計算した数値が1円相違するケースがある。(配当金単価が小数点以下あり、かつ貸出株数が1桁台あり。) (配当以外の権利発生時は、回収することが基本になっている。)</p> <p>[将来像]自動計算サービスの検討を希望。(株券貸借ガイドラインに沿った定型的な取引を想定) 自動計算サービス利用者は自動計算に必要な残高等の情報を連携しDLT基盤で計算された結果を借入者と貸出者(もしくはカストディアン)にて照合できると良い。</p> <p>[将来像]貸借取引ガイドラインで定められていない計算のバリエーションへ対応されるべき。(貸借料計算の残高基準日等) [将来像]自動計算のロジックをファンド毎にカスタマイズできる機能があるとより魅力的な選択肢になると考える。</p> <p>[将来像]ほふりの決済照合システムから自動的に約定情報が連携され、貸借料が自動計算され、各社へは貸借料の通知が来るようなシステムが理想像と考える。 [将来像]計算式が統一されると良い。</p> <p>[将来像]貸借料・担保金金利について計算方法がガイドラインに定められている為、DVP参加者については、約定照合の結果から自動計算を行い、補足資料のようにDLT基盤にてデータ管理をする事も可能と考える。 (しかしながら、DVPに参加していない業者が存在する為、まずはDVP参加を積極的に行う必要がある。 貸借料・担保金金利・配当金相当額の相違が発生しているのはFOP取引によるものと言える。)</p> <p>[将来像]配当金相当額は、DLT基盤のデータベースで、最新の配当情報が一元管理され、参加者がそれを参照し、それをもとに受払すべき配当金相当額が計算できるようになると良い。</p>

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – 外部接続 –

- 現行は各社の自社システムで貸借料、担保金金利、配当金相当額の管理を行われており、DVP決済は保振システムで行われていること等から、自社システムや保振システム等との連携のニーズがある。

大分類	小分類	課題・要望
外部接続	自社システム	[将来像] 自社システムとの接続により、貸借明細の入力や計算/照合結果の連携がスムーズにできるようになると良い。 (取消や修正の場合を含め、データが原則自動連携され、複雑なマニュアル手順を踏まなくてよくなる。)
		[将来像] DLT基盤にてデータの管理を行うためには、各社のシステムとDLT基盤をつなぐ必要がある。(下記懸念と対応案) ・システム改修費用がかかる為、参加者が少ない場合、従来の照合・DLT基盤での照合と平行での作業が発生する可能性があり作業負担が増える懸念あり。 ・DVP総額方式・差額方式と同様にセントラルマッチング方式・アプルーバル方式の2方式を選択できるようにすると、開発費用が増加するため、1方式に統一したほうが良い。
		[将来像] 社内システムとSTP化されると良い。(事前にガイドラインの整備、ルールの順守の対応の必要あり。)
		[将来像] DLT基盤と自社システム間との接続は、データ接続を前提としていただきたい。 そうでない場合は、システムインターフェースが1つ増えることになり、負荷増大となる。
		[将来像] 自社システムとの接続が必要と考える、その際のIFやCSVレイアウトに参加者コード項目を追加したい。
		[将来像] 貸借約定・貸借残高は自社システムとの接続が必要と考える。 (社内情報システムとのリコンサイル等によるデータ管理・運用のため。)
		[将来像] 自社システムとDLT基盤が接続、データ連携を行い、照合ステータスやダッシュボードの情報等をフィードバックされると良い。 ボリュームにもよるが、Web画面ベースの処理だと操作がそれなりに多く、照合・承認にそれなりの手間がかかるように感じた。 各社自社システムとの接続まで対応すると、各社の費用対効果という面で、どれだけこのシステムに価値を感じるか、価値を生み出せるかが課題になると感じた。
	保振システム	APIを通して各社システムをSTP化できるようにする必要がある。(月次の照合だとマニュアルで対応可能だが、日次照合は負担が多い。)
		決済照合システムで約定照合、担保金照合を実施しているが、貸借料率や金利の照合が連動していないので、別途メールで日次と月次で照合を実施している。
		[将来像] 配当金相当額については、保振約定照合のマッチング項目にする必要がある。
		[将来像] 入力された約定情報は保振システムに連携されると良い。
		[将来像] 貸借数量は決済照合システムから約定照合後の貸借残高明細が連携する方が効率的と言える。
		[将来像] 貸借料の支払いについても、DLT基盤上で承認されたものについては保振を介して自動で支払われるようにしてほしい。 (決済照合システム未利用で振替制度のみ利用している参加者についてもDLT基盤を利用できるかが課題。)
市場データ	[将来像] DLT基盤上で保有する市場データを参照することができると良い。 (時価についてはほふり時価だけでなく終値・投信時価も保有すると尚良い。)	
	[将来像] データの送受信にSWIFTも含めていただきたい。	
クラウド	[将来像] 接続性利便性向上のため、クラウド化も含めてデータの保持していただきたい。	

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – スコープ –

- 貸借料、担保金金利、配当金相当額の照合業務に関連する業務に関しても対象とするニーズがあり、参加企業も非居住者や機関投資家や貸株DVP非参加者等も対象とするニーズがある。

大分類	小分類	課題・要望
スコープ(関連業務)	信用取引	[将来像]貸し借りの主体が逆向きの信用取引も対象として頂きたい。投資信託委託会社は一般信用取引において証券会社から株を借りている。ファイルレイアウトが各社異なり、計算式も各社異なるため、非効率となっている。 (以下業務についての詳細) 頻度：毎日 作業内容： ①日歩・貸借料を記載した証券各社のファイルをメールで受信し計理システムにアップロード。 ②①とは別に日歩・借株料をシステムで計算。 ③②を照合しチェック差がある場合は原因を確認、状況に応じて①か②の修正を実施。
	担保管理	[将来像]必要担保保証金の計算過程・金額通知等、および、担保差し入れ・回収連絡等について本スキームに取り込んでほしい。
	決済	照合した代金を貸借DVPで使用しているBOJでの決済にすると、照合と送受金が連携し効率化が高まるのではないか。
スコープ(参加企業)	非居住者	[将来像]非居住者の参加も想定していただきたい。
	機関投資家	[将来像]将来像には、貸出者として信託銀行、運用会社、証券会社、証券金融会社を想定されているが、その先には最終的な株式の所有者である生損保や銀行などもあるため、本サービス実用化にあたってはそうした機関投資家についても考慮した方が良いと思われる。
	貸株DVP非参加者	[将来像]一般貸株DVP参加者以外の業者も参加できる方向で開発を行っていただきたい。 (DVP参加者は約定自動連携、非参加者はデータアップロード機能を使用)

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – システム運用 –

- システム運用については、管理方法や主体について検討事項がある。

大分類	小分類	課題・要望
システム運用	管理主体・方法	<p>[将来像]DLT基盤の管理主体を決め、その主体が制度対応やシステム保守等の管理主体を担うと良い。</p> <p>データアクセスのコントロールや、DLT基盤自体の管理主体（JPX/保振管理/参加者共同管理、等）、管理方法をどうするかが見えず、課題となる可能性があると感じる。</p> <p>今回は単一のWeb画面が提供されたが、各社がDLTサーバーを管理し、自社業務に合わせたUIを作成するイメージになるのか。その場合、各社作りこみを行えることで利便性は向上する一方で、各社のコストの問題にもつながる可能性を感じた。（こういった業界横断的な業務効率化のシステムが必要なのは間違いないと思う一方で、そもそもDLTで実現するメリット/デメリットの整理も必要であると感じた。）</p>

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – 照合方式（アプルーバル方式） –

- アプルーバル方式に対して、業務フローが簡易である点や現行業務を変える必要が無い点等ポジティブな意見がある一方で、照合業務の大幅な改善が感じられないという意見もある。

大分類	小分類	課題・要望
照合方式	アプルーバル方式	一般的な承認フローシステムと同じでDLT基盤で実現する価値が薄いような印象を受けた。
		照合不一致や承認できないケースが発生した際に必要とされるコミュニケーション機能がないと、何かあった場合、結局メールや電話でのやり取りが発生してしまう懸念がある。
		貸借料(月次)の明細情報が貸借料(日次)に相当するため、紐付けがあると利便性の向上が図れると思う。 (日次貸借料項目に合計貸借料金額項目がないため。)
		照合詳細の結果のユーザビリティが良いとは思えない。保振システムのように照合結果が見えればよいと思う。
		この方式の場合、メールで送受信しているものを、システム上に置き換えただけなので、あまり効率性を感じられない。
		日次処理と月次処理を分離して処理できるようにしてほしい。(日次のデータを単独で否認できるべき。)
		アプルーバル方式の場合、承認する側には登録した側のデータをCSV等でエクスポートする機能が必要。 (画面上の目での照合ではなく、システムでの照合を行いたいため。)
		顧客によって、どちらがデータをアップロードするのかを事前に決める必要がある。(両方でデータを送った際のフローが不明。)
Broker間ではデータを送信のルール等を決める必要があり、作業が煩雑になる事が予想される。		

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約 将来像において解決が望まれる課題 – 照合方式（セントラルマッチング） –

- セントラルマッチング方式に対して、照合業務の効率化を感じるというポジティブな意見がある一方で、不一致の際の連絡や、マッチングキーの設定、照合における誤差の許容範囲(1円単位の照合が必要か等)の検討が必要である、という意見がある。

大分類	小分類	課題・要望
照合方式	セントラルマッチング	セントラルマッチング方式だと、照合前の各社側で行われる計算業務は削減されない。
		セントラルマッチングの場合、不一致が起こりうるため、ASP/Webのような機能に加え、チャット/コミュニケーションツールのような機能が必要。 - 不一致の際に、お互いが登録した値がどう違うのかを表示したほうが原因のすり合わせがしやすい。 - メッセージ欄に相手先がどこのだれなのか、記載されているとよい。 - 各社内で権限のある人が承認しているのか、をはっきりさせる認証の仕組みが必要。
		照合結果の表示は一致・相違の詳細が見えるべき。(保振の照合インターフェースは良いサンプルだと思う。)
		弊社現行のシステムでは1円単位で合致できる数字を出力するのが困難等、弊社における実用化はハードルが高いと感じた。
		相互に承認できる必要性はないと思料。承認できるもの(=一致したもの)は自動で承認を返しても問題はないのではないかと。(否認のみ手打ちで承認する。)
		日次の明細画面で不一致となっている明細を絞り込み検索できるようにすべき。 実務上は、合計数量は一致しているがShapeが相違していること等の原因により、日々多少の誤差は発生するため、そのような場合にどちらが合わせるか等を決めておく必要がある。 また、日次明細で修正すべき不一致と許容範囲内の相違を区別できるようにすべき。
		日次でマッチングする際は、どの項目をマッチングキー項目にして、どの項目を照合項目にするのが良いか検討が必要。(テスト環境では、マッチングキー項目に対する貸借料がマッチしているかで判断していた。) それぞれの取引において、銘柄・数量・貸借料率・時価を照合し、どの項目に相違があるかを示せるようにするContract Compareの仕組みが良いかもしれない。
		[将来像]日次/月次の貸借料の照合結果通知で、差異が発生した場合は原因となっている明細(取引Ref)が容易に確認できるようになると良い。
		双方アップロードしたデータが完全に一致している場合、自動的に承認されてもよいと感じた。
		日次のデータでアンマッチがあるものに対して、複数明細を一括して“相手の数字を承認する”選択肢が必要。(テスト環境だと日次のデータを再作成し、相手と合わせる必要があった。)
		口座のマッチングキーの設定が課題となる。
		双方でのデータアップロードで負担軽減感が感じられないのではないかと。

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – 照合方式（自動計算） –

- 自動計算に対して、自動で計算されることで照合業務の改善が感じられるといったポジティブな意見がある一方、ガイドラインに記載されている計算式以外への対応や保振システムとの二重打鍵を避けるため約定照合データ活用する等の検討課題がある。

大分類	小分類	課題・要望
照合方式	自動計算	計算結果の導出根拠（入力情報、演算時の入力日数など）が承認レコードごとに確認できるUIが必要と考える。何をもってその計算結果が正しいのか、それを判断できる情報が提供されない場合、計算結果に対する問合せ先として、DLT基盤の運用側に求められることになると想定される。（ただコンソーシアムのDLT運用において、運用者側の負荷が相当大きくなり望ましくないと考える。）
		システム上で不自然な値を検知するようなロジックや、各種マニュアルへのリファレンス等で作業者の負担減をしないと、作業者が自動計算の算出結果が正しいかどうか判断できないような印象を受けた。
		日次の約定情報ベースで貸借料の自動計算が行われることは非常に便利な一方、貸借料登録データを各社で管理する必要があるため相応の運用負荷があると懸念する。
		ガイドライン通りの計算方法では対応しきれない取引フローや取引先があるため、計算方法をファンド毎にカスタマイズできればより魅力的な選択肢になると思う。
		自社システムの開発に加え、既存取引データの移行が伴うことが予想されるため実用化へはハードルが高いと感じた。
		約定データを一方の当事者だけが登録するフローが受け入れられるか。第三者の介在は不要か。
		約定データの取得方法については、当事者がアップロードするのではなく保振の約定データから取得できることが理想と言える。（ただし、Rate Changeの際や約定キャンセルの際など、自社システムのデータと保振の約定データの整合性を保っておく必要がある。）担保金金利について、市場金利ではなく独自の金利を使用している先があり、そのような先についても金利が登録され自動計算できるか検討が必要。
		数量・貸借料率・時価が決まれば、貸借料の計算はシンプルなので、自動で計算して貸借料を照合するよりは、それぞれの計算要素の項目で、どこで差異があるのかが明示され、差異がある項目について、日次で修正できるような仕組みの方が良いと感じた。
		権利落ち日～確定日において、調整時価が必要。
		金利、逆日歩、配当金相当額をも考慮した形にしていく必要がある。また、使用するプライスの考慮が必要。（権利落ち後の調整時価や使用プライスの種類）
保振約定照合のデータを活用する事により、データ作成が無くなれば現実的である。		

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約

## 将来像において解決が望まれる課題 – 検証環境固有1/2 –

- 実機検証環境固有の課題として、画面等のユーザインターフェースに関するものがある。
- 照合対象と照合方式が複数あることから、実用化を検討する際はオペレーションミスが発生しない分かり易い仕組みを検討する必要がある。

大分類	小分類	課題・要望
検証環境固有	UI (画面設計)	画面が総合的に見づらい。
		マウスオーバーはわかりづらいので、相手先データを横に表示する等、見比べやすくすべき。
		どのデータが承認済なのかステータス確認がわかりにくかった。(一度否認したデータについては内容の一部が照合できていたとしても、再照合の際にはすべてのデータをアップロードしてもらったほうが良いのではないか。)
		一目で自社のデータ、相手会社のデータ、一致・不一致などがわかるような画面設計に改善すべき。
		自社が送ったデータに対応している、相手先データがわかりづらい。
		画面遷移が分かりにくい。遷移時のフィルタが分かりにくい。
		(Dashboard、日次、月次のデータをクリックした場合に、別画面に遷移すると、遷移した際のフィルタがわかりにくい。)
		全体的に、ユーザーにとって見やすく、かつシンプルになるように修正すべき。
		貸借料計算用なので「約定(自動計算)」という表記はわかりづらい、「約定データ投入」等、約定そのものの照合ではないことが分かるよう改善すべき。なお、約定の詳細な内容については、表示する必要はないのではないか。
		日次表示から月次表示に移動したときの表示内容が分かり辛い。
		データを間違えてアップロードした際、削除ができないため、画面が見辛い。不要なデータは削除できると良い。
		アンマッチ原因の表示が分かり辛い。(慣れの問題かもしれません)
		貸借料と担保金金利の支払いはネットで行われることが多いため、貸借料と担保金金利はページを分けたいほうが良い。
		照合不一致の場合、不一致の原因となっている明細がわからない。
		不一致が発生した場合、承認側はどの明細が原因不一致となっているか分からない。
		相手が登録していないので、照合データが無いのに<マッチングキーが無い>という表示はわかりにくい。 <相手未登録>と表示して欲しい。
		マウスオーバーでセントラルマッチング方式の照合結果の相違理由を確認する方法が使いづらく感じた。
数字が一致しないデータは認識できるが、足りないデータが把握できない。		
UI (ダッシュボード機能)	Dashbordがお知らせ機能になってしまっている。自社が行わなければならない処理の全体件数や、進捗状況の管理が出来る様改善すべき。	
	先方が承認した事によりDashboardの表示が<承認>となる為、自社の承認は不要と認識してしまう。当方未承認・相手未承認・一致(双方承認済)など、ステータス表示を変更する必要がある。	
	Dashboardで何のファイル(月次/日次)のデータを受信したのか分からない。分かるよう改善すべき。	
	Dashboardを処理一覧として活用する事になると考えると、ステータス表示、金額表示なし、更新ボタンが無い為最新状況を表示できないなど、多くの課題が見受けられる。 Dashboardを情報伝達画面とするのであれば処理を管理する画面を新設していただきたい。	

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの



# “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”のアンケート結果の要約 将来像において解決が望まれる課題 – 検証環境固有2/2 –

- 実機検証環境固有の課題として、機能追加要件や点がある。  
実機検証環境においては、スコープを絞った対応となったが、将来像としてはこれらの検討が必要となる。

大分類	小分類	課題・要望
検証環境固有	機能追加	全ての画面においてダウンロード機能が欲しい。
		照会した内容をCSVファイルでダウンロードできると良い。
		削除や承認処理が打鍵ではなく、登録と同様にアップロードでできると良い。
		実用化の際にはアップロードデータを作りこむ為の対応が必要必須と考える。 (各社オリジナルで計算機能があるなか、アップロードデータを作りこむ作業が増えるとなると参加のハードルが高くなると思われる。)
		検索条件で、「相手先が未承認」、「相手先が否認」、「自社が未承認」など、作業が完了していないものを抽出する条件があると良い。
		「相手先」の名前だけでなく、証券会社コードの項目があると良い。
		日次で照合済みであるため、TOTALの承認で良い。残高が多い場合、約定毎に承認は現実的に不可能である。 一括承認ボタンを作成する等も考慮が必要と考える。
		コラム上に金額の相違理由と相手の値（該当時）を示す欄を追加したほうが複数取引での相違でも特定しやすい。
		日次明細で相手先のみ登録があり自社未登録のものが見えないが、わかるような機能が必要。
		特にセントラルマッチング方式を採用する場合、月次のGUIの中にマッチングステータスの項目が欲しい。(全件Matchか、そうでないのかが一目で分かるようにすべき。)金利の照合もターゲットにした場合、月次GUI内での数字の見せ方に工夫が必要と思われる。
		日次の画面に<当初受渡日>が欲しい。
		DLT基盤はあくまでも照合のためのプラットフォームであり、照合が完了したデータは社内に持ち帰り支払いまでの後続処理をする必要があるため、データ出力機能の必要性を感じる。
		手順不明瞭・動作不良
	承認時に「操作を完了しました」と「エラー」のポップアップが表示された。	
	否認した後もダッシュボードに内容を確認してほしい旨の通知が残る。	
	ファイルアップロード後に自動リロードされない。	
	画面上のテキストコピー時に、貼付時にコラムヘッダーがずれてしまう。	
	承認済であっても、再アップロードすると上書きされ承認前のステータスに戻ってしまう。	
	照合アプルーバル方式で入力したデータが、相手方のDashboardに表示されない。	
相手先が承認後、もう一度同じデータをアップロードすると、データが上書きされ未承認の状態に戻ってしまう。		
承認後は、データを上書きできないようにした方が良い。		
全体として手順が分かり辛くEメールなどで照合を行うのと比較して、有用性が格段に高いとは感じない。		

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

## “株券貸借取引における貸借料・担保金金利と配当金相当額の情報共有”まとめ

### 現行の課題

- ✓ 株券貸借取引は、新規取引及び返済取引に係る照合・DVP決済のインフラがあるものの、貸借料・担保金金利・配当金相当額の照合についてはインフラがなく、メール等にてコミュニケーションをとりながら、2者間もしくは3者間にて照合を行う必要があるため、照合を終えるまでのステータス確認が煩雑であり、計算齟齬があった際の原因究明にも手間がかかる。
- ✓ 株券貸借取引については、株券貸借ガイドラインにおいて標準化された事務処理が整備されているものの、投信計理上の処理や慣習により、必ずしも当該ガイドラインに定められた計算ルールとなっていないこともある。また、照合の頻度や単位も相対で個別に取り決めることが多く、取引の相手毎に異なる対応が必要となっている。

### 将来像の考え方と実現における検討事項

- ✓ 株券貸借取引における貸借料・担保金金利・配当金相当額の照合を行うための基盤を構築し、基盤を通じて取引関係者間で情報を共有しながら照合を行うことが可能となれば、照合のステータス管理の負荷は軽減され、アンマッチ時の原因分析の効率化が期待できる。
- ✓ さらに高度化として基盤にて貸借料・担保金金利・配当金相当額の計算を行い、結果のみを照合するようになれば、アンマッチとなるケースも減少し業務が効率化する上に、個社での計算する仕組みを持つ必要がなくなり、取引コストを下げる効果も期待できる。
- ✓ ただし、このような基盤を有効に活用するためには、株券貸借市場における主要な参加者に利用されるものとする必要がある。その対応として、こうした照合機能を貸株DVP参加者向けに提供し、株券貸借取引の照合を包括的に行えるようにするという案や、照合事務から貸借料等の資金決済まで一連の処理をSTP化する案が考えられる。
- ✓ また、業務効率化と取引の活性化を進める上では、基盤の整備のみでなく、一定の取引の標準化を並行して進めることが求められる。